

尼崎青少年創造劇場の運営

1 主催公演事業

(1) ピッコロシアター鑑賞劇場

県民文化の高揚と地域文化の振興を図るため、演劇、伝統芸能、音楽（室内楽）などの優れた舞台芸術を紹介する鑑賞劇場を開催した。また、子どもと大人が一緒に楽しめる演劇や落語会など、明日のひょうごを担う子どもたちに優れた舞台芸術にふれる機会を提供した。

なお、令和2年度は、コロナ禍により一部事業が中止・延期となった。

事業名	公演年月日	出演者等	入場者
ピッコロ室内楽サロン<185> 共催 (小ホール)	2. 9. 12(土)	出演=佐野里穂、福嶋令奈、 須山由梨	12
ピッコロ寄席「桂枝雀一門会」 (大ホール)	2. 9. 26(土)	出演=桂南光、文之助、九 雀、紅雀、九ノ一	137
ピッコロ室内楽サロン<186> 共催 (小ホール)	2. 11. 14(土)	出演=フルーツカルテット エミココ	30
劇団風の子関西 「風の少年シナド」 (大ホール)	2. 12. 6(日)	出演=劇団風の子関西	115
ピッコロ寄席「桂吉朝一門会」 (大ホール)	2. 12. 13(日)	出演=桂あさ吉、吉弥、よ ね吉、吉坊、吉の丞	175
ピッコロ寄席「桂米團治独演会」 (大ホール)	3. 2. 7(日)	出演=桂米團治、宗助、慶 治朗	179
シアタースタート 民族芸能アンサンブル若駒 「はるなつあきふゆ あそぼあそぼ」 (中ホール) (文化庁 劇場・音楽堂等機能強化推進事業補助)	3. 3. 12(金) (2公演) ※5月に予定し ていたが、3月 に延期	構成・演出=つげくわえ 出演=民族芸能アンサンプ ル若駒	111
ピッコロ室内楽サロン<188> 共催 (小ホール)	3. 3. 13(土) (2公演)	出演=ミラクルセッション	70
ピッコロ寄席 「子どもと楽しむ落語会」 (大ホール)	3. 3. 28(日)	出演=桂吉弥、紅雀、團治郎 (注)例年の開場時間後の舞台上 での鳴り物体験は中止	171
合 計 9 事業 (演劇 2、音楽 3、落語 4)			1,000

〔コロナ禍により中止した7事業〕

事業名	公演年月日	出演者等
劇団うりんこ 「遍歴の騎士 ドン・キホーテ」共催 (大ホール)	2. 4. 25(土)	原作=セルバンテス 翻訳=牛島信明 脚本・演出=山崎清介 出演=劇団うりんこ
ピッコロ室内楽サロン<184> 共催 (小ホール)	2. 5. 9(土)	出演=ライラック
ピッコロ寄席「桂ざこば一門会」 (大ホール)	2. 5. 16(土)	出演=桂ざこば ほか

文学座公演 「昭和虞美人草」 (大ホール)	2. 6. 27(土)、 28(日) (2公演)	作=マキノノゾミ 演出=西川信廣 出演=早坂直家 ほか
いいだ人形劇センタープロデュース せかいの劇場 VOL.9 「シュッシュ ムーワン! こいぬの大冒険」 (中ホール)	2. 11. 22(日)	出演=ナイブニ人形劇場(チェコ)
ピッコロ室内楽サロン<187> 共催 (小ホール)	3. 1. 9(土)	出演=トレスコロレス
方丈の海 2021 プロジェクト 「方丈の海」 共催 (大ホール) (東北演劇人との交流企画) (文化庁 劇場・音楽堂等機能強化推進事業補助)	3. 3. 20(土)、 21(日) (2公演)	作=石川裕人 演出=渡部ギユウ (SENDAI座☆プロジェクト) 出演=絵永けい(初演時の OCT/PASSメンバー)、横山真(丸福 ボンバーズ) ほか

(2) ピッコロフェスティバル(中止)

開館記念日(8月19日)を中心に約1カ月にわたり、例年、開催していた「ピッコロフェスティバル」は、令和2年度の本館大規模改修工事による7~8月閉館のため中止とした。

その代替事業として11月に「体感!ピッコロシアター~1日体験イベント~」を予定していたが、10月下旬以降のコロナ禍再拡大に伴い、やむなく中止した。

【主催公演事業 評価】

ピッコロシアター鑑賞劇場

○ コロナ禍の影響

	事業数	内訳		
当初の予定	16	演劇 6	音楽 5	落語 5
コロナ禍による中止	△7	演劇△4	音楽△2	落語△1
実績	9	演劇 2	音楽 3	落語 4

- 演劇の分野では、8年目となった乳幼児と保護者向けのシアタースタート事業として「民族芸能アンサンブル若駒」による「はるなつあきゆふ あそぼあそぼ」は、当初5月の予定を翌年3月に延期しての上演となった。乳幼児の五感にやさしく働きかける内容で、親子で豊かな時間と空間を過ごすひとときを提供できた。

子どもたち向けの公演として、12月に「劇団風の子関西」による「風の少年シナド」を上演。親子での舞台鑑賞が激減した時勢にあって、演劇を楽しむ機会を提供できた。

- 音楽の分野では、地域の若手音楽家グループを支援する「ピッコロ音楽サロン」について、年5回の上演を予定するも、コロナ禍で2回は中止となった。若年音楽家グループの発表の場の確保に努めた。
- 伝統芸能の分野では、尼崎ゆかりの米朝師匠一門による恒例の落語会「ピッコロ寄席」を開催、5月の「桂ざこば一門会」は中止となったが、その後の4回は席数制限の中、早々に予約席数が埋まるなど安定した集客を得た。
- 鑑賞劇場入場者のアンケートについては、回答用紙の手渡しを当面中止とし、会場内据え置き及びWEB方式での実施。満足度(「とてもよかった」「よかった」)は、演劇93.8%、音楽100.0%、伝統芸能98.9%。(アンケート配布・回収方法は劇団公演等についても同様)

2 自主公演事業

県立ピッコロ劇団事業

尼崎青少年創造劇場が長年培ってきた人材育成事業の集大成として創設した県立ピッコロ劇団が、優れた舞台芸術の創造と地域文化の振興をめざして、ピッコロシアター等での演劇公演を中心に、演劇指導、外部出演など多彩な活動を展開した。

【設 立】平成6年4月1日

【劇団代表】岩松 了（劇作家・演出家・俳優）

【客 員】鶴山 仁（演出家＝文学座）、喜志 哲雄（京都大学名誉教授）、
杉本 了三（演劇プロデューサー）、内藤 裕敬（劇作家・演出家＝南河内万歳一座）

【劇 団 員】35名（男17名、女18名）(R3.3.31現在)

(1) 劇団公演の実施

大人向け、ファミリー向け、小・中学生向けなど、幅広く良質の創作演劇を提供した。
なお、令和2年度は、コロナ禍により公演が一部中止・延期となった。

【文化庁 劇場・音楽堂等機能強化推進事業補助】

事業名	公演年月日	出演者等（※：ピッコロ劇団員）	入場者
ファミリー劇場 「とっととといてよ！ シャーロック・ホームズ」 (東りいたみホール(伊丹市立文化会館))	2. 8. 15(土) ～16(日) (2公演)	作＝早船 聡 (サスペンデッズ) 演出＝平井久美子 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	535
中学生のための演劇鑑賞体験事業 ピッコロわくわくステージ 「とっととといてよ！ シャーロック・ホームズ」 (大ホール)	2. 11. 25(水) ～12. 2(水) (10公演)		16校 1,602
ファミリー劇場 「とっととといてよ！ シャーロック・ホームズ」 (県立芸術文化センター阪急中ホール)	2. 12. 19(土) ～20(日) (3公演)	* 12月公演について 例年はオーディションによる子ども達約20名が出演しているが、コロナ禍により出演募集を取り止め。	735
おでかけステージ 「学校ウサギをつかまえろ」 (①尼崎市立上坂部小学校、大ホール) (②上郡町立高田小学校、同校体育館)	①2. 10. 15(木)、 16(金) (3公演) ②2. 10. 22(木) (1公演)	原作＝岡田 淳 台本＝眞山直則 (※) 演出＝吉村祐樹 (※) 出演＝ピッコロ劇団員	①555 ②188 計743
第68回公演 「ホクロのある左足」 (大ホール)	2. 10. 2(金) ～4(日)、6(火)、 7(水) (6公演)	作＝別役 実 演出＝岩松 了 出演＝ピッコロ劇団員 * 故 別役氏メモリアル公演	875
第69回公演 ピッコロシアタープロデュース 「波の上のキネマ」(☆) (県立芸術文化センター阪急中ホール)	3. 2. 19(金) ～21(日) (5公演)	原作＝増山 実 「波の上のキネマ」(集英社) 脚本・演出＝岩崎正裕 (劇団太陽族) 出演＝ピッコロ劇団員ほか * 関西俳優陣からオーディション等により6名出演	1,102
合 計 6事業、30公演 【本公演2本、ファミリー劇場2本、わくわくステージ(秋)、おでかけステージ】			5,592

☆ 第69回公演関連企画「波の上のキネマ」を語る！スペシャル座談会

(阪神南県民センターからの受託事業)

- ・ 3. 1. 19 (火) ピッコロシアター大ホールにて開催 (来場者数 98 人)
- ・ 出演：原作者の増山 実氏、演出・脚本を手掛けた岩崎正裕氏、キャストのピッコロ劇団員など

(参考1) ピッコロ劇団公演における鑑賞サポート実施状況

① ファミリー劇場「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」

(8月 東りいたみホール)

視覚障害のある方向けに音声ガイド付きで上演。受付では、手で触れて舞台をイメージしてもらえるよう舞台の立体コピーを作成展示。

② わくわくステージ「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」(11月 大ホール)

- ・ 姫路聴覚特別支援学校生徒向けにバックステージ解説に手話通訳。
- ・ 神戸市立盲学校生徒向けに音声ガイド付きで上演。手で触れて舞台をイメージしてもらえるよう舞台の立体コピーを作成展示。

③ 第69回公演「波の上のキネマ」(2月 県立芸術文化センター阪急中ホール)

聴覚障害のある方向けにタブレットを配布して字幕によるセリフ・歌詞・場面紹介などを配信、受付等での手話通訳。

(参考2) 第23回関西現代演劇俳優賞(2020年)をピッコロ劇団員2名が受賞

① 大賞 風太郎 (平成16年度入団)

対象作:「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」での視覚障害者のための音声ガイドや、ピッコロ劇団オンライン版紙芝居「おはなしBOX」の脚本・絵・朗読を通して、誰もが演劇を楽しめる環境づくりに貢献

② 奨励賞 田淵詩乃 (平成30年度入団)

対象作:「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」のハドソン夫人役で、の慈愛をたたえた若い母親の演技が評価

(参考3) バリアフリー研修の実施

ファミリー劇場(東り いたみホール)での鑑賞サポート実施に先立ち、視覚障害者の誘導案内(弱視体験、手引き体験)やグループワークなどの実践研修を当該ホールの職員等と合同で開催した。

- ・開催日 令和2年7月22日(水)
- ・会場 東り いたみホール(手引き体験:大ホールの客席、ロビー、階段、トイレ)
- ・参加者 当劇場職員、ピッコロ劇団員、東り いたみホール等職員 計22名
- ・講師 南部充央氏(日本障害者舞台芸術協働機構代表理事)

[コロナ禍により中止した5事業、21公演]

事業名	公演年月日	出演者等 (※:ピッコロ劇団員)
オフシアターVol.36 「もういちど、鴨を撃ちに」(注) (中ホール)	2.4.10(金) ~12(日) (5公演)	作=A. ヴァムピーロフ「鴨猟」 (訳=宮澤俊一・五月女道子 群像社) 台本・演出=島守辰明(※) 出演=ピッコロ劇団員
第67回公演 「スカパンの悪だくみ」(注) (大ホール)	2.5.22(金) ~24(日)、 30(土)、31(日) (6公演)	作=モリエール (鈴木力衛訳 中央公論社) 台本=上原裕美 (ピンクのレオタード)
ピッコロわくわくステージ (5~6月期) 「スカパンの悪だくみ」(注) (大ホール)	2.5.23(土) ~6.2(火) (7公演)	演出=孫 高宏(※) 出演=ピッコロ劇団員
市町ホール公演 「スカパンの悪だくみ」(注) (ライフピアいちじま(丹波市))	2.6.18(木) (2公演)	※ わくわくステージ(5~6月期) の参加申込:14校、1,992名
市町ホール公演 「学校ウサギをつかまえろ」 (太子町立文化会館あすかホール)	2.11.10(火)	原作=岡田 淳 台本=眞山直則(※) 演出=吉村祐樹(※) 出演=ピッコロ劇団員

(注) コロナ禍により中止となった下記の2演目は次のとおり対応。

- ① オフシアターVol.36「もういちど、鴨を撃ちに」→3年度にVol.37として5公演(3.4.9~11)
- ② 第67回公演「スカパンの悪だくみ」→・第70回公演として6公演(3.5.23~6.1)
・わくわくステージ(3.5~6月期)でも上演

(2) 演劇の指導

大学や高等学校等に劇団員を指導者として派遣することによる演劇ワークショップ等を県下各地で開催。ピッコロ演劇学校においては、本科及び研究科の主任講師、助手をピッコロ劇団員が通年で担当。

なお、特に年度前半は、コロナ禍により中止やオンライン対応となった指導も多かった。

事業等名	劇団員	実施年月日	開催場所 【コロナ禍による実施方法の変更等】
ピッコロ演劇学校 本科 体験プログラム	山田 裕 菅原ゆうき 杏華 (9月～)	通年 (毎週火・木)	ピッコロシアター 【9月から短期カリキュラムによる体験プログラムとして実施】
ピッコロ演劇学校 研究科 体験プログラム	島守辰明 櫻村千晶 堀江勇氣 (9月～)	通年 (毎週火・木)	ピッコロシアター 【9月から短期カリキュラムによる体験プログラムとして実施】
兵庫県立宝塚北高校	木之下由香	通年 (毎週木・金)	兵庫県立宝塚北高校 【4・5月は登校日に課題出題及び動画配信、6月から通常授業】
兵庫県立伊丹北高校	係 高宏	通年 (毎週水)	兵庫県立伊丹北高校 【4・5月休校。6月から通常授業】
プール学院高等学校	中川義文 杏華	通年 (毎週火)	プール学院高等学校 【4月休校、5月動画配信、6月2週まで半数授業、6/16から通常授業】
大阪市立咲くやこの花高校	木村美愛	通年 (毎週火・木)	大阪市立咲くやこの花高校 【4・5月休校、5月に2回オンライン授業、6月2週まで半数授業、以降通常授業】
甲南女子大学	本田千恵子	通年 (毎週水・木・金)	甲南女子大学 【前期は予定日から2週遅れでZOOM授業を開始、後期は通常授業】
大阪芸術大学	本田千恵子	通年 (毎週月・水)	大阪芸術大学 【前期はZOOMによるオンライン授業、後期は通常授業】
近畿大学	島守辰明	通年 (毎週月)	近畿大学 【4・5月休校、6～8月オンライン授業(週3コマ)、9月から通常授業】
劇団高円養成塾	島守辰明	通年 (毎週上)	奈良市ならまちセンター 【7月までオンライン、8月はオンラインと通常を交互、9月から通常授業】
クラーク記念国際高校芦屋キャンパス	中川義文	通年 (毎週水)	クラーク記念国際高校 【4～6月下旬まで休講、6/24から通常授業】
神戸市立小部中学校演劇部	中川義文	通年 (不定期) (主に木・金・土)	神戸市立小部中学校 【4・5月部活動停止、6/25より部活開始、8/1～17夏季休暇中中止、8/21から部活動再開】
大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校	中川義文	通年 (毎週火)	大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校 【4月から5月下旬まで休校、5/26から1クラス内をオンライン班と対面班に分け、ZOOMを使って同時に授業実施、6/23から通常授業】
特定非営利活動法人 東京ソテリア主催 「マラー／サド」	中川義文	通年 (不定期) (月1回程度)	YMCA京都、高槻南スクエア、北浜スタジオ 【公演は来年に延期、代わりに10月に講演会を実施、6月まで稽古中止、月1回の準備委員会オンライン会議、7月から稽古再開(9月まで)、10月以降、月1回程度、演技指導】

ホスピタリティ ツーリズム専門学校大阪	櫻村千晶	通年 (毎週水・金)	ホスピタリティ ツーリズム 専門学校大阪 (大阪市) 【5月オンライン授業、6月から7月初 旬通常授業、夏休みまでの2回オンラ イン授業、後期は10月から通常授業】
特定非営利活動法人やんちゃんこ 演劇ワークショップ	風太郎 吉江麻樹 有川理沙 金田萌果 田淵詩乃	通年 (不定期) (日曜に2,3回)	やんちゃんこふれあいスペース (尼崎市) 【活動開始を3ヵ月延期、7/12から実 施】
ヒューマンアカデミー 三宮校	眞山直則	10～12月	ヒューマンアカデミー三宮校 【一部オンラインにて実施】
豊岡市新任職員研修	本田千恵子 木村美憂 鈴木あぐり 谷口 遼	2. 4. 6	豊岡市健康福祉施設 多目的ホール
あつまれ！ピッコロひろば	吉江麻樹 係 高宏	2. 6. 9 2. 6. 23 2. 7. 3	養父市立建屋小学校 (ワークショップ3回) (上演指導2回)
	吉江麻樹 孫 高宏	2. 10. 8 2. 10. 19	
堺市立三国丘小学校 ワークショップ	木村美憂	2. 7. 3	堺市立三国丘小学校
みんなの尼崎大学オンラインゼミ第3回 「オンラインは舞台だ！ 演劇レッスンで表現力を学ぼう」	本田千恵子	2. 7. 7	オンライン (Z o o m)
アフタースクール コドシア ワークショップ	原 竹志	2. 7. 30	アフタースクール コドシア (教育付き民間学童保育) (神戸市)
兵庫県立神崎高校 コミュニケーション能力育成研修	本田千恵子 中川義文	2. 9. 9	兵庫県立神崎高校
県立教育研修所 高等学校初任者研修	本田千恵子	2. 9. 10、 10. 16、11. 5	県立教育研修所(加東市)
第10期阪神南地域ビジョン委員会委員 コミュニケーションワークショップ	本田千恵子	2. 9. 13	西宮市大学交流センター
兵庫県立鳴尾高校 コミュニケーションワークショップ	山田 裕 中川義文	2. 9. 14、28	兵庫県立鳴尾高校 【文化祭の演劇指導から内容を変更して実施】
関西学院大学	本田千恵子	2. 10. 5、12	関西学院大学 【5/11、18実施を延期し10月実施】
関西学院大学	島守辰明	2. 10. 19、 26、11. 2、9	オンライン授業
第33回兵庫県高等学校演劇研究会丹有支部 演劇コンクール審査員	孫 高宏	2. 11. 1	フラワータウン市民センター (三田市)
兵庫県児童館連絡協議会 児童厚生員等研修会	亀井妙子 森 万紀 山田 裕	2. 11. 6	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール
新国立劇場演劇研修所	島守辰明	2. 11. 15～ 12. 21	新国立劇場演劇研修所 (東京)
兵庫県立神出学園ワークショップ	山田 裕 中川義文 菅原ゆうき	2. 11. 30、 12. 8、9、14	県立神出学園 (神戸市)
大阪市立住吉第一中学校体験入学	木村美憂	2. 12. 3	大阪市立住吉第一中学校
関西保育福祉専門学校特別講座 「劇、オペレッタの演じ方等表現力を学ぶ」	島守辰明	2. 12. 4	関西保育福祉専門学校
「みんなでつながろう！ 加古川文化フェスティバル」司会者指導	本田千恵子	2. 12. 28	加古川市民会館
やってみようプロジェクト 「DIEコース in 関西」	本田千恵子	3. 2. 19～21	オンライン(ZOOM)で開催

(参考) コロナ禍により中止になった演劇指導など

事業等名	劇団員	実施年月日	開催場所
京都芸術大学 舞台芸術学科演技演出コース	田淵詩乃	前期 (毎週木)	京都芸術大学
キング醸造(株) 新入社員研修	本田千恵子	2. 4. 22	キング醸造(株)本社(稲美町)
兵庫県立神戸鈴蘭台高校3年生文化祭	島守辰明	2. 4. 22、5. 2、29	兵庫県立神戸鈴蘭台高校
神戸大学附属中学校	島守辰明	日程確定前に中止	神戸大学附属中学校
西宮市立西宮東高校文化祭	島守辰明	2. 5. 20、 6. 10、17、20	西宮東高校
西播磨文化会館 演劇ワークショップ	本田千恵子	2. 7. 25、11. 29	西播磨文化会館
兵庫県高等学校演劇研究会 丹有地区夏期高校演劇講習会	本田千恵子	2. 8. 3	三田市フラワータウン 市民センター
兵庫県自治研修所行政特別研修	本田千恵子 他2名	2. 8. 5、6	兵庫県自治研修所(神戸市)
教員養成のための未来塾	本田千恵子	2. 10. 21	関西学院大学聖和キャンパス
兵庫県立山の学校ワークショップ	山田 裕 菅原ゆうき	3. 1. 22	ピッコロシアター大ホール
日本劇団協議会事業 やってみようプロジェクト にほんごであそぼう(小野・加東)	本田千恵子 他4名	2. 8. 2、16、 9. 12、27 3. 1. 31、2. 28	小野市うるおい交流館エクラ 加東市役所ほか
あつまれピッコロひろば	山田 裕	日程確定前に中止	赤穂市立城西小学校体育館
令和2年度鳥取県高等学校総合文化祭・ 演劇発表会特別審査員	風太郎	日程確定前に中止	米子市公会堂

(3) 外部出演等

他劇団、地域団体等の依頼を受け、演劇公演、放送等での出演や演出などに劇団員を派遣。

事業等名	劇団員	実施年月日	開催場所
コトリ会議 『晴れがわ』 演出・出演	原 竹志	2. 7. 10~13 2. 8. 14~16	伊丹アイホール 金沢21世紀美術館 シアター21
大阪芸術大学短期大学部 就職案内冊子「げいたんは就職もすごい！」 インタビュー	有川理沙	2. 9. 8	ピッコロシアター 大ホール
橿原市立新沢小学校生徒の児童劇団 リトル・ぐらん「ふれあいIN新沢」上演指導・演出	風太郎	2. 10. 25	橿原市新沢地区公民館 (奈良)
尼崎北図書館 おはなしBOX 演出・出演	風太郎 他4名	2. 11. 8	尼崎市立北図書館
性的マイノリティの人権を考える集い 演劇公演『パパがママになる日』 上演指導	風太郎	2. 11. 11、28、29 3. 1、2、3	米子市淀江文化ホール
MODE 『魚の祭』 出演	孫 高宏	2. 12. 18~20	伊丹アイホール
伊丹想流劇塾第4期生公演『福福あざなう』 出演	原 竹志	2. 12. 26、27	伊丹アイホール
やんちゃんこ祭り 脚本・演出・振付・演奏・チラシイラスト	風太郎 他4名	2. 12. 27	ピッコロシアター 中ホール
特定非営利活動法人やんちゃんこ おはなしBOX 演出・出演	風太郎 他2名	3. 3. 6	アラカサビル(尼崎) やんちゃんこ ぶらっと スペース
ニットキャップシアター第40回公演 『カレーと村民』 出演	亀井妙子	3. 3. 9~11	THEATRE E9 KYOTO (京都)
劇団コロロ公演 「眠っているウサギ」 出演	菅原ゆうき	3. 3. 27	ドーンセンター(大阪)

(テレビ出演) 岡田 力: NHK 歴史秘話ヒストリア R2. 4「楠木正成」、R2. 12「大江山鬼退治」
NHK連続テレビ小説R2. 12「おちょやん」

(ラジオ出演) 菅原ゆうき: NHK FMシアター R2. 4「ノストラダムスと冷静な航海士たち」
NHK青春アドベンチャー R3. 2「負け犬たちのミッドナイト・バス」

(その他: CMナレーター等) 山田 裕: R2. 2~「日産自動車」「関西電力」

森 好文: R2. 3~「上田安子服飾専門学校」

菅原ゆうき: R3. 2 自費出版書籍販売促進用ポスターモデル・YouTube出演

(参考) コロナ禍により中止または延期になった外部出演など

事業等名	劇団員	実施年月日	開催場所
ピーターパンのふたつのおはなし 出演	鈴木あぐり	2.5.2、3	新横浜スペース・オルタ
にしきた音楽祭「LALALAミュージシャンコンテスト」公開予選 司会	本田千恵子	2.9.6	西宮市大学交流センター
		2.9.13	阪急西宮ガーデンズ
高山右近フェスタ 出演	本田千恵子	2.10.17	オンライン(実地開催からの変更であったが、オンライン自体も中止)
西北活性化協議会主催 ミュージカル「オン・ザ・タウン」 前夜祭イベント 出演(絵本読み聞かせ)	—	日程確定前に中止	兵庫県立芸術文化センター
ニットキャップシアター第40回公演 『カレーと村民』 出演	亀井妙子	3.1.14~17 →3.5.7~10 延期	こまばアゴラ劇場(東京都)
コトリ会議 『晴れがわ』 演出・出演	原 竹志	2.8.7~11 →3.3延期 →中止	こまばアゴラ劇場(東京都)

(4) ピッコロサポートクラブへの支援

尼崎商工会議所等が中心となって、平成8年に設立されたピッコロ劇団の後援会組織である「ピッコロサポートクラブ」の活動支援として、情報誌『into』発行など会員向けサービス事業を共同実施。

【会員数(口数)】 法人会員・個人会員計 338口 (R3.3.31現在)

【情報誌の発行】 年4回発行(A5版、20ページ)、約10,000部発行

【会員向け事業】 ピッコロ劇団公演チケット優待、稽古場見学会、茶話会、総会・交流会など

※ 令和2年度はコロナ禍により総会や交流会、稽古見学会の開催をとりやめ。会員とのオンライン交流会を試行的に開催。(R2.12.6 会員参加者数9人)

【自主公演事業 評価】

(1) ピッコロ劇団公演

○ コロナ禍の影響

	事業数	ステージ数
当初の予定	11	51
コロナ禍による中止	△5	△21
実績	6	30

○ 演劇界の東京一極集中が進む中、ピッコロ劇団は設立26周年を迎え、演劇公演の質の高さを維持しつつ、地域、兵庫に根ざした作品づくりなどにより、県民に愛される優れた舞台芸術の提供に努めてきた。例年であれば、年間3本の本公演(5月期、10月期、翌年2月期)やファミリー劇場公演(夏休期・冬休期)を中心に、実験的なオフシアター公演、県内中学生向けの鑑賞体験事業(わくわくステージ)、小学校訪問公演など。令和2年度はコロナ禍により5事業、21ステージが中止。芸術文化センター(阪急中ホール)での12月及び2月公演は予定通り上演できた。

○ 10月期の第68回公演は「ホクロのある左足」。ピッコロ劇団の前代表：別役実氏がピッコロ劇団に1998年に書き下ろし上演した作品を現劇団代表：岩松了の新演出により22年ぶりに再演。2020年3月に別役氏が逝去され、はからずもメモリアル公演として劇団の財産演目を鮮烈な印象とともに観客に届けた。多くの演劇評論家の劇評でも高評価を得た。

○ 2月期の第69回ピッコロプロデュース公演は、地元尼崎の小さな映画館をめぐる、原作：増山実氏の「波の上のキネマ」（集英社刊）を岩崎正裕氏（劇団太陽族）の脚本・演出により上演。ピッコロ劇団員に加え、オーディションなどにより関西で活躍する俳優陣6名も参加。また関連企画として阪神南県民センターの協力を得て、公演に先立つトークイベントを開催。尼崎ゆかりの小説の舞台化は地元へのアピールとなった。

○ 大人も子どもも楽しめるファミリー劇場は「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」。8月期はピッコロシアターの施設改修に伴い伊丹市立文化会館（東りいたみホール）で、12月期は恒例の芸術文化センターでの上演。なお、12月期公演でのオーディションによる子供たち約20名の出演は取り止め。

また、両公演とも客席数を半数以下の席設定としたが、親子・家族で楽しめるような配席の工夫や、終演後の役者と会場の子どもたちとの例年のふれあいタイムに替えて、役者と観客が一体となってクリスマスソングを振り付けや手拍子で演出し、会場を盛り上げた。（振り付けを上演の約2週前からネットで動画配信）

○ ピッコロシアターで生の演劇公演舞台を県内中学生が鑑賞体験する「わくわくステージ」は本格実施9年目を迎えた。当初は5～6月期（演目：「スカパンの悪だくみ」）と11～12月期（演目：「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」）の計20ステージを上演する予定であった。コロナ禍により5～6月期の9ステージ（丹波市公演を含む）は中止、11～12月期の上演のみとなった。参加校数は16校1,602人（例年は40～50校・参加者数約5～6,000人）であった。

終演後のピッコロ劇団員による舞台表現や舞台技術などの解説も好評であった。

○ アンケートによる満足度（「とてもよかった」「よかった」）は、本公演が95.9%、ファミリー劇場が100.0%、わくわくステージが92.6%。

(2) 鑑賞サポートの充実

○ ファミリー劇場「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」（東りいたみホール）では、視覚障害のある方向け（18名）にピッコロ劇団員による音声ガイド付きで上演。また、受付での手話通訳や手で触れて舞台をイメージしてもらえよう舞台の立体コピーを作成展示。

なお、上演に先立ち、劇場職員・ピッコロ劇団員・東りいたみホール職員の合同での視覚障害者の誘導案内等の実践研修として「バリアフリー研修」を開催。

○ わくわくステージ「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」（大ホール）では、姫路聴覚特別支援学校生徒向け（13名）にバックステージ解説での手話通訳。神戸市立盲学校生徒向け（10名）に音声ガイド付きでの上演や舞台の立体コピーを作成展示。

○ 第69回公演「波の上のキネマ」（県立芸術文化センター阪急中ホール）では、聴覚障害のある方向け（11名）にタブレット型の字幕サービスを提供した。

(3) ピッコロ劇団員への評価

第23回関西現代演劇俳優賞（2020年）をピッコロ劇団員2名が受賞。大賞に、風太郎（平成16年入団）が「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」での音声ガイドなど、また、奨励賞に、田淵 詩乃（平成30年度入団）が「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」での演技が評価された。

(4) 演劇の指導、外部出演など

ピッコロ劇団員が、演劇学校本科、研究科の主任講師、指導助手を通年で務めている。

また、学校教育や行政の現場支援についても、劇団員による演劇指導や演劇ワークショップ（小学生向け「あつまれ！ピッコロひろば」や神出学園など）の依頼が継続しているほか、他劇団公演や文化イベントなどへの出演や演出などの協力も継続、劇団員活動の場の広がりが見られる。

ただし、特に年度前半は、派遣の中止やオンライン対応が相次いだ。また、例年の県立山の学校ワークショップや兵庫県自治研修所行政特別研修への派遣などが中止となった。

（外部指導：中止12件／外部出演：中止6件）

3 人材育成・体験活動事業

(1) ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営

演劇創造について幅広く学ぶ演劇学校（本科 1983 年開設、研究科 1984 年開設）、音響・照明・美術などの基礎技術を学ぶ舞台技術学校（1992 年開設）を運営。関西・日本を代表する演劇人、舞台技術者等を講師陣に迎え、プロ、アマチュアを問わない演劇関係人材や地域の文化活動リーダー、文化施設スタッフなどの養成を継続。

[コロナ禍の影響を受けての対応]

両校は、例年 1 年間を通じてのカリキュラム編成となっているが、令和 2 年度に限っては、9 月からの約半年間、基礎的知識の習得を目的とした、短縮カリキュラムによる体験プログラムとして実施、2、3 月には例年の卒業公演に替えて、学習成果発表会を開催した（無観客対応、関係者のみ立ち合い）。

なお、実施にあたっては、毎授業、参加者全員が検温・手指消毒を行い、常時のマスク着用、アクリルボード等も併用するなどの対策を講じた。

(文化庁劇場・音楽堂等機能強化推進事業補助)

区分	ピッコロ演劇学校 体験プログラム	ピッコロ舞台技術学校 体験プログラム
概要	舞台づくりの楽しさや面白さを味わいながら、表現力や創造力を身につけるなど、将来の演劇創造者、地域に根差した文化活動リーダーを養成	クリエイティブな地域文化のステージづくりと文化施設運営の活性化を図るため、舞台芸術を支える美術、照明、音響の舞台技術者を養成
期間	令和 2 年 9 月 13 日 ～ 3 年 2 月 28 日（本科） ～ 3 年 3 月 7 日（研究科）	令和 2 年 9 月 4 日～ 3 年 3 月 7 日
場所	ピッコロシアター	ピッコロシアター 県立芸術文化センター（特別授業）
授業	原則、毎週 2 回（火・木の夜間）	原則、毎週 2 回（水・金の夜間）
講師	① 本科 主任講師 山田 裕(ピッコロ劇団員) 助手 菅原ゆうき(同) 他 ② 研究科 主任講師 島守辰明(ピッコロ劇団員) 助手 樫村千晶(同) 他	① 美術コース 主任講師 加藤登美子(舞台美術家) ② 照明コース 主任講師 水野雅彦(株ハートス) ③ 音響コース 主任講師 林 哲郎(サウンドウッドカンパニー代表)
特別講師	平田オリザ、鐘下 辰男 他	服部 基、堀尾 幸男
受講生	本科 参加 22 名 修了 19 名	研究科 参加 16 名 修了 12 名
		参加 15 名〔美術 8 名、照明 3 名、音響 4 名〕 修了 14 名〔美術 7 名、照明 3 名、音響 4 名〕

【特別講義】

区分	期日	特別講師	講義テーマ
演劇学校	2.10.11	平田オリザ（劇作家・演出家）	演劇を学ぶとは
	2.11.21～22	鐘下 辰男（劇作家・演出家）	演技の基本
舞台技術学校	2.10.31～11.1	堀尾 幸男（舞台美術家）	舞台美術のはじまり
	2.11.7～8	服部 基（舞台照明家）	舞台照明を考える

※ 岩松了（劇団代表）による特別講義（3. 1. 23～24）：コロナ禍により中止

【オープンキャンパス】

期 日	期 日	概 要	参加者
舞台技術学校	2.12.22	学校説明、実際の機材を使って音響・照明・舞台操作の体験ツアー	38
演劇学校	3.1.17	学校説明、身体訓練等の授業体験	18

【学習成果発表会】

令和2年度は演劇学校と舞台技術学校の合同発表ではなく、各々半年間の学習成果を発表する場を設定（無観客実施、関係者のみ立ち合い）

演劇学校（本科）	演劇学校（研究科）	舞台技術学校
3.2.27(土)～28(日) 中ホール	3.3.6(土)～7(日) 中ホール	3.3.7(日) 大ホール
演目「あゆみ」 作＝柴幸男 潤色・演出＝山田裕 (ピッコロ劇団員)	演目 「三人姉妹4幕のドラマ」 作＝A. チューホフ 潤色・演出＝島守辰明 (ピッコロ劇団員)	当初は「ダンス公演」と「演劇公演」について、プロ団体「ダンスボックス」と「劇団演陣」に依頼してのオペレーションを実施予定としていたが、これらの準備継続が難しいことから、公演のためのプランを各自が完成させ、それらの発表・講評の機会を設定しての対応。 「音楽ライブ」は年末の軽音楽ライブ実習でプロの演奏者を招きオペレーション体験。
〈本科〉〈研究科〉共通 ・上演台本については、授業時間の変更・短縮、出席停止の事態も想定し、代役や場面カットなど、様々な状況にも対処できるよう潤色や演出面で工夫 ・「三密」回避のため、上演時の距離を十分にとりながら、美術・照明・音響いずれも極力使わずほぼ素舞台とし、アクティグエリアを最大に設定		

(2) ピッコロ・山根演劇賞の贈呈

県立ピッコロ劇団員のうち優れた演劇活動を行った者2名に贈呈した。

対 象 者	備 考
ピッコロ劇団員 三坂 賢二郎 平井 久美子	サントリー地域文化賞の副賞をもとに平成元年3月に創設。その後、神戸新聞奨励賞、久留島武彦文化賞、紀伊國屋演劇賞の賞金、山根淑子氏の寄付等により基金額を増額。

※ 演劇学校生及び舞台技術学校生に対しては、例年3名に贈呈しているが、令和2年度は贈呈を中止。

(3) ピッコロシアター文化セミナー（文化庁 劇場・音楽堂等機能強化推進事業補助）

著名な舞台人の芸談、専門家による伝統芸術の紹介・解説などの文化セミナーを開催し、舞台芸術への関心を高め、地域文化の振興を推進。（大ホール）

事 業 名	期 日	出演者等	入場者
ピッコロシアター文化セミナー 〈98〉三林京子さんに聞く 「私の女優人生」	3.1.14(木)	出演＝三林京子(女優・落語家) 聞き手＝亀岡典子 (産経新聞社文化部編集委員)	125

※ 令和2年6月予定の〈97〉「三世 茂山千之丞さんに聞く（狂言師）」は、令和3年6月に〈99〉として開催。

(4) 研修生等の受け入れ（2年度実績）

県立尼崎高2人（2.10.28） ※コロナ禍により受入実績は殆ど無し

(5) 視察見学等の受け入れ（2年度実績）

舞台芸術の公演現場や劇場建築・施設の視察見学等を希望する団体などを受け入れ。大阪市立咲くやこの花高校（大ホール見学）、大阪市立大学大学院（ヒアリング）

※ 兵庫県空調衛生工業会：3年度に延期

(6) ピッコロ実技教室

伝統芸能や演劇等の体験的学習、解説をまじえた実技教室を開催し、舞台芸術への関心を高め将来の鑑賞者の育成を推進。

事業名	期日	出演者（指導者）等	入場者数
オペラの普及をめざして 関西二期会オペラ研修所と連携 「ピッコロオペラ教室」	3. 3. 26(金)	講師：小餅谷哲男 関西二期会副理事長	36
オペラの楽しみ方 「第56期生による修了オペラ」 (演目：コシ・ファン・トゥッテ)	3. 3. 27(土)	関西二期会オペラ研修所 第56期生 ほか	92

【人材育成事業・体験活動事業 評価】

(1) ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営

- 公立劇場では全国初の取り組み。演劇学校本科、研究科のそれぞれの主任講師、助手を
通年でピッコロ劇団員やピッコロ演劇学校卒業生が務めている。また、舞台技術学校の講師
(舞台美術、音響、照明)は関西を代表する専門技術者が務めている。
関西エリアを中心に若い世代の学びのニーズに応えつつ、専門的な人材の育成だけでなく、
地域での文化振興に指導力のある人材の育成に着実に貢献できていると考える。

○ コロナ禍の影響

令和2年度は、コロナ禍により、両校は4月からの1年間の通年講義を断念、9月からの
半年間の短縮カリキュラムによる体験プログラムとしての実施に変更した。

参加人数も半数程度に減らしての実施とし、学習内容も演劇や舞台技術の基本や楽しさを
重点的に伝え、参加者の学習意欲や継続学習につながるよう動機付けに重きを置いた。

感染防止対策として、毎授業、参加者全員の検温・手指消毒・常時マスク使用やアクリル
板等も併用。演劇学校では、身体接触を極力避けた身体訓練を新たに取り入れたほか、舞台
技術学校では、技術の欠落による舞台現場での危険を招くことのないよう基礎技術の習得に
割く時間を充実させた。

2、3月の修了時は、例年のような両校合同の卒業公演(観客あり)ではなく、各々単独で
半年間の学習成果を披露する成果発表会(観客なし、関係者のみ立ち合い)とした。

《参加人数(修了者数)》

演劇学校本科22人(19人)、研究科16人(12人)、舞台技術学校生15人(14人)

※ 演劇学校本科の令和元年度末までの卒業生は1,218名、研究科は723名、舞台技術学校
は797名。(令和2年度の体験プログラム参加者は含まない)

(2) ピッコロシアター文化セミナーの開催

例年、出演者と聞き手の人選に配慮してきた。令和2年度の1回目<97>は、6月に狂言師三
世茂山千之丞氏を迎える予定が中止(3年度に延期)。翌年1月の2回目<98>は、女優・落語
家の三林京子氏を迎えての開催。席数を半数に設定、早々に定員に達するなど関心の高さが伺
えた。女優人生を語る三林氏の明るく豪快軽妙な語り口が観客を魅了した。

[入場者満足度(「とてもよかった」「よかった」)は100.0%]

(3) 研修生等の受け入れ

例年、トライやるウィークの中学生、高校・大学生のインターンシップ、各種団体の視察見
学などに応じているが、受け入れ実績は殆どなかった。

(4) ピッコロ実技教室の開催

例年、高校生等若者向け演劇ワークショップや高校演劇夏期集中講座などを夏休みに開催し
ているが、7～8月の本館改修工事のため中止。

3月の関西二期会オペラ研修所との連携事業として、オペラの魅力や見方を学ぶ「ピッコロ
オペラ教室」には36人が参加(定員を例年の半数)、翌日には第56期生による修了オペラ
「コシ・ファン・トゥッテ」を上演、ピッコロシアターでオペラを楽しめる機会を提供した。

[参加者満足度(「とてもよかった」「よかった」)は95.5%]

4 コロナ禍による新たな取組—動画配信—

ピッコロシアターとピッコロ劇団の事業・公演について、より幅広い客層に関心を持ってもらい、コロナ収束後は、実際に足を運んでもらえるよう、SNSやホームページ等を通じて、PR動画、劇団員による紙芝居の読み聞かせ、朗読ムービー、歌唱リレー、劇場探検ツアーなど、新たなコンテンツ配信などの取組を進めた。

区 分	内 容					
「#またピッコロで会いましょうプロジェクト」	コロナ禍で演劇などの鑑賞機会が減った方に向けて、ピッコロ劇団員がツイッターやユーチューブなどを活用して自宅で気軽に楽しめる取組を提供。					
	①オンライン版 「おはなしBOX」	普段、ピッコロ劇団が図書館や公民館、子育てサークルなどで行っている取組「あつまれ！ピッコロひろばおはなしBOX」をオンラインで実施。劇団員が脚本・絵・朗読を担当し、地元の民話や古典落語などを元にした紙芝居を動画配信。多言語（英語）・聴覚障害者にも配慮し、字幕をつけた。				
		タイトル	制作（ピッコロ劇団員）	字幕なし	日本語字幕	英語字幕
		第1弾「名月姫と松王丸」 第2弾「富松町の鬼 茨木童子」	風太郎	○	○	○
		第3弾「古典落語 釜ぬすつと」 第4弾「古典落語 粗忽の使者」	風太郎、岡田力、三坂賢二郎	○	○	—
		第5弾「童話 ロバの王子」	車貴玲、金田萌果、有川理沙、田淵詩乃、吉江麻樹、風太郎、三坂賢二郎、岡田力	○	○	—
②紙芝居 「グッドガール シンシア」	ピッコロ劇団第66回公演『夢をみせてよ』関連企画として制作した、宝塚市の介助犬シンシアの物語を紙芝居『グッドガール シンシア』として動画配信 <字幕なし版><日本語字幕版> (風太郎、吉江麻樹、吉江麻樹、三坂賢二郎、岡田力)					
③朗読ムービー 「放課後の時間割」	児童文学作家：岡田淳氏の「放課後の時間割」から選りすぐりの物語を劇団員が朗読 (平井久美子、橋 義、鈴木あぐり、谷口 遼、橋 義)					
④『さらって行ってよピーターパン』より 「おいかけあい」	ピッコロ劇団前代表・別役実氏によるピッコロ劇団ファミリー劇場への初の書き下ろし作品『さらって行ってよピーターパン』から、劇団員による「おいかけあい」（作曲=氷見嘉章）のナンバーを過去の上演映像とともにリレー式で歌唱（全劇団員）					
⑤『ピッコロシアター劇場探検ツアー』	劇団員：本田千恵子と人形のミミちゃんによる、普段みることのできない劇場機構の裏側を紹介する劇場探検ツアー<シアター編><劇団編> (本多千恵子、風太郎、三坂賢二郎、木村美憂)					
⑥Twitter企画 『30秒 de 名台詞』	劇団員が思い入れのあるセリフをリレー式に30秒で紹介（計22名）					
劇場・劇団のPR動画	①ファミリー劇場のPR動画『ようこそ冒険の広場へ』（県からの受託事業）	ファミリー劇場のダイジェスト版をHPにアップし、ピッコロ劇団公演の作品と魅力を動画配信 (構成) ①またピッコロで会いましょう ②ファミリー劇場は冒険でいっぱい ③「とっととといてよ！シャーロック・ホームズ」お楽しみに！（公演告知）				

②ピッコロシアター 魅力発信事業による PR動画の制作 (県からの受託事業)	劇場の取組を紹介するPR動画を制作・HPで配信 (構成) ①ピッコロシアター編(日本語字幕・手話通 訳付き、英語字幕付き) ②ピッコロ演劇学校・舞台技 術学校編 ③ピッコロ劇団編
ピッコロサポートクラブによるオン ライン交流会	例年開催している総会や交流会、稽古見学会は中止、 劇団員と会員とのオンライン交流会を試行的に開催 (R2.12.6、会員参加者数9人)
「県民芸術劇場」公演演目のPR 映像制作(県民芸術劇場支援事業※)	3年度予定公演をPRするための映像を制作 (対象) 小学校公演「学校ウサギをつかまえろ」 ※「県民芸術劇場」登録団体の舞台芸術の映像をWe b 上で無料配信し、市町・小学校・高校等が「県民芸術 劇場」の実施を検討する際に活用してもらおう芸術文化 協会事業
演劇学校・舞台技術学校体験プログラ ム開講前の事前学習講座を動画配信	半年間の短縮カリキュラムになることから、参加者に 対して事前に予習動画や基礎講座をオンライン配信 して、学習内容のレベルを維持

【動画配信事業 評価】

- 令和2年度はピッコロ劇団員が「#またピッコロで会いましょう プロジェクト」を立ち上げ、自宅でも楽しめる動画を配信。また、兵庫県からの委託を受けて劇場や自主事業、ピッコロ劇団公演を紹介する動画を制作するなど、コロナ禍での新たな試みを実施した。今後もオンラインによる動画配信などを補完的に活用しながら、新たな客層の開拓や劇場に足を運んでもらえるような企画を継続していく。

5 施設の管理運営事業

(1) 劇場施設の利用状況

青少年の演劇、音楽、舞踊等の創造活動を促進するとともに、県民文化の高揚を図るために設置された「県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)」の指定管理者として、鑑賞劇場、文化セミナー等の自主事業を実施するほか、施設の適切な管理と運営、演劇、音楽、舞踊等の舞台芸術を創造しようとする県民の練習・発表の場として、ホールや練習室などを広く提供している。

【所在地】 尼崎市南塚口町3丁目17番8号

【施設】 大ホール(客席数396席)／中ホール(収容200人)／小ホール(収容100人)

楽屋(6室)／練習室(3室)／資料室(閲覧室・書庫)／舞台美術工房等

【ホール等利用実績(2年度)】 利用者数 29,120人(前年度同期118,729人)

利用率 74.9%(前年度同期 91.8%)

【利用状況】

区 分	利用者数(人)		利用率(%)	
	元年度	2年度	元年度	2年度
大ホール	54,656	13,159	91.5	74.1
中ホール	18,353	4,188	90.5	67.8
小ホール	22,359	6,886	92.2	76.1
練習室	13,199	4,213	89.5	77.2
展示室(～R1) 閲覧室(R3.1 ～)	7,423	605	—	—
資料室(～R1) 書庫(R3.1～)	2,739	69	—	—
計	118,729	29,120	91.8	74.9

(注) 展示室及び資料室は令和元～2年度の大規模改修工事により閲覧室及び書庫にリニューアル。閲覧室及び書庫は令和3年1月より供用開始。

【利用料収入】

(単位：円、税込)

区 分		利 用 料 収 入	
		元年度	2年度
ホ ー ル 等	大ホール	6,694,750	1,935,079
	中ホール	1,928,500	620,600
	小ホール	2,285,450	1,325,650
	楽屋	871,600	352,140
	練習室	1,581,600	923,325
	展示室(R1 まで)	86,000	—
	ホール等計	13,447,900	5,156,794
付属設備		6,600,000	2,264,850
合 計		20,047,900	7,421,644

(参考) 本館の大規模改修工事について (国の地方創生拠点整備交付金等を活用)

- ・ 県土整備部営繕課及び設備課と連携して工事を実施
- ・ 総事業費：348 百万円 (うち令和2年度当劇場直接執行分 42,869 千円)
- ・ 平成31～令和2年度の工事期間
 - 第Ⅰ期工事：令和2年2～3月 (練習室、資料室、展示室を閉室)
 - 第Ⅱ期工事：令和2年7～8月 (本館休館 (事務室は開室))

※大ホール内エレベーター設置工事は12月に完了

工期	改修内容	改修箇所・内容	工事内容
第Ⅰ期	人材育成に資する改修	舞台美術工房(地下)の整備	・不要な空調機システムを撤去 ・舞台大道具・小道具を製作する工房に改装
		書庫・交流スペースの整備 (資料室)	・資料室の書庫化 ・展示室を開架式閲覧・交流スペースに改装
第Ⅱ期	快適・利便性の向上に資する改修	練習室の防音機能向上	練習室3室の防音換気機能向上 (改装含む)
		ホール天井照明の更新 *	大・小ホールの天井灯をLED化
	大ホール内エレベーター設置 *	ホワイエ奥に障害者等対応エレベーター新設	
第Ⅲ期	安全・長寿命化のための改修	電気設備等更新	高圧変受電設備更新
		給排水管等改修	受水槽・給排水管等の更新
第Ⅳ期		外壁・屋上等整備	外壁補修、屋上防水

(* : R2 当劇場対応分)

(2) 情報の提供・発信

(7) 演劇等舞台芸術関係資料の提供

青少年などの幅広い創造活動を支援するため、令和元年度に整備したピッコロシアター資料室 (閲覧室・書庫) において、演劇・音楽・舞踊などの舞台芸術専門書等の閲覧・貸出を行うとともに、照会にも対応。

なお、ピッコロ劇団初代代表、故・秋浜悟史氏のご遺族からの寄贈蔵書約 5,500 冊を「秋浜文庫」として受け入れ、書籍の充実を図った。

【新・資料室 (閲覧室・書庫) について】

- ・ 開室時間：10:00～18:00 (資料の閲覧請求・貸出受付時間：13:00～17:00)
- ・ 1人3冊、2週間まで貸出
- ・ 蔵書検索システム (スマホ対応)・閲覧室内の検索システム端末などで資料を検索
《蔵書検索へのアクセス》<https://piccolo-library.opac.jp>
- ・ 閲覧室で自由に閲覧可能
- ・ 閲覧室には、高校演劇などの台本を設置 (開架式)

(イ) ホームページの利用状況

施設概要、利用案内、事業内容、劇団情報などを掲載し、広く情報発信。

【R2 アクセス件数】 77,583 件

令和2年7月にピッコロシアターのホームページをリニューアル、より見やすく分かりやすいレイアウトとなるようデザインを一新、スマートフォンからも見やすくするなどの改良を図り、情報発信力の充実を図った。

※ 新URL <https://piccolo-theater.jp> (リニューアルに伴い URL 変更)

- ・主催公演や募集情報等がより分かりやすくタイムリーに伝わるようビジュアルを工夫。
 - ・『今日の劇場』のコーナーで貸館情報も含め日々の劇場の動きが分かるレイアウトに更新。
 - ・スマートフォン、タブレット端末等にも対応するレイアウトにしてPR効果を向上。
 - ・フェイスブック、インスタグラム、ツイッターを活用したSNSにより発信。
- (内容) *
- ・ 公演&参加する 公演・募集情報、月間スケジュール 等
 - ・ 劇場を知る&使う フロアガイド、利用案内、空き状況 等
 - ・ ピッコロ劇団 劇団員プロフィール、上演記録 等
 - ・ ピッコロ演劇学校&ピッコロ舞台技術学校 学校案内、学校Q&A 等

(ウ) SNSの活用

- ・ 劇場ブログ「ピッコロ便り」 アクセス数 400～500件/日
- ・ 劇団ブログ「稽古場ダイアリー」 アクセス数 200～300件/日
- ・ 学校インスタグラム 閲覧数 200～300件/日
- ・ 全体フェイスブック（登録者数700名） 閲覧数 500～600件/日
- ・ ツイッター 閲覧数 1,500～1,600件/日

(エ) 定期刊行物の発行・配付

月間催し物案内（毎月）やピッコロ劇団後援会機関紙「into」（年4回、各2,000～3,000部程度）を発行し、来館者、近隣の公共施設や文化施設等に配付。

(オ) 芸術文化情報コーナー

館内の2箇所に芸術文化情報コーナーを設置。県内外施設の芸術文化関連のイベント、チラシや情報誌を配架し、来館者に情報提供。

(カ) 広報媒体を通じた発信

- ・ 定期的なプレスリリース送付に加え、公演形態・稽古スケジュール等に応じた記者会見や稽古取材、個別インタビュー、新聞社訪問、劇団員等の在阪メディアへの出演を適宜実施。
- ・ 地元FM局にピッコロシアター・ピッコロ劇団コーナーを運営。
 - FM尼崎「ピッコロ通信」毎月第2・4土曜
 - 「こちら、阪神南県民センターです」（約2カ月に1回、劇場の事業紹介）
 - FM宝塚「ピッコロ劇団公演情報」毎月第2月曜

〔劇団公演等にかかる記者会見、主な個別取材の状況など〕

劇団公演関係	メディア・掲載日など
オフシアターVol.36 「もういちど、鴨を撃ちに」	(個別取材)3/25:神戸新聞
ファミリー劇場 「とととといてよ！シャーロック・ホームズ」	(個別取材)7/28:毎日新聞、7/29:神戸新聞
第68回公演「ホクロのある左足」	(個別取材)9/15:毎日新聞、9/16:読売新聞、9/18:朝日新聞、9/20:神戸新聞、10/4:日経新聞、10/16:ラジオ関西、テアトロ12月号、12/1:大阪日日新聞
第69回公演「波の上のキネマ」	(記者会見)1/6:ホテルヴィスキオ尼崎 (座談会)1/19:毎日新聞 (個別取材)2/1:ラジオ関西、2/10:FMCOCOLO、2/19:毎日新聞

劇場事業関係	メディア・掲載日
シアタースタート「あるなつあきふゆあそぼあそぼ」	(個別取材)2/15:神戸新聞

劇団員インタビュー、ピッコロ劇団に係る論評など ※():劇団員等関係者	掲載新聞
「紙芝居や朗読、動画を配信」	毎日新聞(5/28)
「朗読劇 ネット公開」	読売新聞(6/5)
「演劇の楽しさ おうちで体験」	神戸新聞(6/12)
「別役実の世界」(岩松了)	毎日新聞(9/24)
「随想」6回(岩松了)	神戸新聞(5/18、6/2、6/17、7/2、7/17、8/5)
「遠隔コミュニケーションに何が必要？他者への想像力が大切」(本田劇団員)	神戸新聞(5/22)
「#また、ピッコロで会いましょうプロジェクト」論評	テアトロ9月号
「ホクロのある左足」劇評	テアトロ12月号
「ホクロのある左足 若者への共感と声援込め」劇評	大阪日日新聞(12/1)
関西現代演劇俳優賞受賞	神戸・毎日新聞(4/16)
「イベント自粛 公立劇場が悲鳴」(大鳥館長)	朝日新聞(4/2)
「京阪神 劇場関係者 Zoom 座談会」2回(古川専門員)	毎日新聞(6/4、6/11)
「舞台芸術の鑑賞サポート 音声ガイド 役者手ずから製作」(古川専門員)	毎日新聞(4/18)
「赤ちゃんこそ劇場体験を」(山房専門員)	神戸新聞(12/13)

【施設の管理運営事業 評価】

- ピッコロシアター利用者は、新型コロナ緊急事態宣言発出による臨時休館(R2.4.8～5.31)、及び7～8月の本館改修工事に伴う休館、その後の感染拡大などにより、令和元年度と比較し約9万人の大幅減(△76%)、ホール等の稼働率も例年の90%と比較し75%と落ち込んだ。
- 本館改修工事では、本館の電気設備更新、大・小ホール天井照明のLED化、給排水管改修、大ホール内エレベーターの新設など、安全・長寿命化及び施設内の利便性の向上が図られた。
- 貸館利用者を対象に9月から12月にかけて実施した抽出調査では、「大変満足」「満足」の合計は、開館時間92.5%、施設・サービス92.6%、清潔さ97.5%、スタッフ99.2%と高評価であった。
- 練習室の防音換気機能向上、おむつ交換台や授乳室の整備など、施設の快適性向上に努めており、利用者の満足度はここ数年90%台を維持している。
- 令和2年7月にホームページをリニューアルし、主催情報等がより分かりやすくタイムリーに伝わるようビジュアルに工夫するなど改良を図るとともに、資料室(閲覧室・書庫)において舞台芸術専門書等の閲覧・貸出を円滑に行えるよう、検索システムを整備することができた。

〔本部関係〕

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

芸術家・芸術文化団体の活動支援

1 芸術文化公演再開緊急支援事業

新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら劇場、音楽堂で芸術文化公演等の舞台芸術活動を再開する取り組みを支援するため、施設使用料の助成を行った。

2 ひょうごアーティスト動画配信事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、アーティストの活動が著しく減少し、県民が劇場や美術館へ足を運びにくくなった状況のもと、兵庫県ゆかりの新進・若手アーティストが出演・制作した動画作品を公式 YouTube チャンネルで配信した。

また、第2弾として、兵庫県の芸術文化を第一線でリードしているアーティストの動画作品を配信した。

3 県民芸術劇場登録団体公演内容PR動画配信事業

県民芸術劇場の地元主催者（市町・学校等）が、県民芸術劇場の実施を検討する際に、公演の様子を動画で鑑賞し選択できるように県民芸術劇場の登録団体に PR 動画制作の機会を提供し、公式 YouTube チャンネルで配信した。

4 県民芸術劇場の拡充（一般公演の追加）

緊急事態宣言後の社会経済活動の本格的な再開に向けて、地域の元気づくりに必要な優れた舞台芸術の鑑賞機会を県民に提供するため、県民芸術劇場の一般公演枠を拡充して実施した。

5 新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ+

芸術文化を担う人材の育成につながる取り組みとして、将来の活躍が期待される新進・若手アーティストに対し、県内のホール等を活用して感染症拡大予防に対応したリサイタル形式による演奏会「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ+（プラス）」の場を提供するとともに、県民の鑑賞機会を提供した。従来の「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ」では、出演者はチケット収入を公演経費に充てていたが、コロナ禍のもと、チケット収入が見込めなくなったため、入場料を無料とし、出演者には出演料を当協会が負担するよう事業内容を拡充した。

6 芸術文化施設ロビーコンサート

会場の対象を県内の芸術文化施設等に広げ、出演への感染症対策費用を出演料に盛り込むなど、従来の県民会館ロビーコンサートの事業内容を拡充した「芸術文化施設ロビーコンサート」を実施した。

7 さわやかステージ+

県、市町及び関係団体等が主催するシンポジウム、フォーラム、セミナー等、各種のイベントにおいて芸術文化の香り高い演出を行うミニ・パフォーマンス「ひょうごさわやかステージ+（プラス）」を実施してもらうよう働きかけた。従来の「さわやかステージ」では出演者を斡旋し、必要経費は実施施設負担としていたところ、令和2年度は、より実施してもらいやすい環境づくりを目指し、その出演料を負担した。

芸術文化普及啓発事業

1 主催事業

すぐれた芸術文化活動を行う個人・団体を顕彰するため、主催四賞の表彰を行った。受賞者を「すずかけ」で紹介するとともに発表の機会を提供した。

(1) 芸術文化活動の表彰事業

① 第39回ふるさと文化賞

地域社会において、永年にわたりひたむきな努力を続け、伝統文化の継承に貢献するなど、その活動と功績が著しい2個人1団体に「ふるさと文化賞」を贈呈した。

【贈呈式】 令和3年1月22日

【会場】 兵庫県民会館

【受賞者】 藤本 義和 (邦楽の普及・神戸市)

野花 敏郎 (戦国太鼓の伝承・丹波市)

養父神社お走り祭り保存会 (奇祭の継承・養父市)

② 亀高文子記念－赤艸社賞

絵画の創作活動を通じて県民文化の高揚に功績があった女流洋画家に「亀高文子記念－赤艸社賞」を贈呈した。

令和2年度の受賞者(藤飯千尋)の作品を兵庫県民会館1階の特別展示室の壁面に展示し、受賞者に作品発表の機会を提供するとともに来館者の目を楽しませた。

【贈呈式】 令和3年3月11日

【会場】 兵庫県民会館

【受賞者】 柴田 知佳子 (宝塚市) 受賞者記念展開催予定 (3年7～8月)

③ 坂井時忠音楽賞

県内において音楽活動に優れた業績をあげ、将来の活躍が期待される音楽家を奨励するため「坂井時忠音楽賞」を贈呈した。

【贈呈式】 令和3年3月11日

【会場】 兵庫県民会館

【受賞者】 坂本 彩 (ピアノ・明石市) リサイタル出演済 (2年10月)

梶 貴志 (バリトン・西宮市) リサイタル出演予定 (3年11月)

④ ひょうごアーティストサロン賞

ひょうごアーティストサロンの事業に積極的に参加し、将来一層の活躍が期待される新進・若手芸術家及びサロンの企画・運営に協力的な指導者に「ひょうごアーティストサロン賞」を贈呈した。

【贈呈式】 令和3年3月8日

【会場】 兵庫県民会館

【受賞者】 〈アーティスト部門〉 蔭山 晶子 (クラリネット・宝塚市)

リサイタル出演済 (2年12月)

島田 直季 (日本画・神戸市)

〈協力者部門〉 小川 哲生 (音楽・猪名川町)

(2) コンクール、展示事業

① 第32回全国手工芸コンクール in ひょうご

女性を対象とし、ふだんの生活から創りだされた、ぬくもりのある手工芸作品を全国から公募し、表彰した。表彰式はコロナの影響により中止した。

【会期】 令和2年11月13日～15日

【会場】 原田の森ギャラリー

【出品数】 159点

【入場者】 約600人

② 第26回兵庫ふれあい美術展

県内から日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真を公募し、表彰した。表彰式はコロナの影響により中止した。

【会期】 令和2年12月25日～27日

【会場】 原田の森ギャラリー

【出品数】 553点

【入場者】 約1,100人

③ 亀高文子記念－赤艸社賞歴代受賞者作品展【新規】

歴代受賞者が30人になったことを契機に、故亀高文子氏（県文化賞受賞者）の作品を加え、一堂に紹介する展示会を開催した。併せて「県民アートギャラリーWalk 360」により、オンラインで展示風景を360度パノラマで鑑賞できる機会を提供した。

【会期】 令和3年3月5日～14日

【会場】 兵庫県民会館

【入場者】 約1,000人

④ 第35回鈴懸の径絵画展【中止】

自ら絵画の創作活動に親しむアマチュアの発表と交流の場とし、「兵庫の風物を描く」と「花を描く」をテーマに公募を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。

⑤ 第33回ひょうご子どもの作文と詩コンクール【中止】

県内の小学生を対象として、学校や遊び、友だちづきあい、町、家庭での身近なできごとなどを書いた作文と詩の公募を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大等により中止した。

⑥ 第58回2020県展【中止】

県内に生活し、日頃から美術作品の制作活動に励んでいる方を対象に、絵画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインの公募を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。

⑦ 兵庫県民会館文化教室総合展

兵庫県民会館で実施されている、美術・書道等さまざまなジャンルの文化教室の作品を一堂に展示し、受講生の交流や発表の場を提供した。

【会期】 令和3年3月19日～21日

【会場】 兵庫県民アートギャラリー

【出品数】 92点

【入場者】 約200人

(3) 主催公演事業

① 県民芸術劇場

小学生・高校生、一般県民が優れた舞台芸術を身近に鑑賞し、県内芸術団体等が活動する機会として110回県民芸術劇場を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により6割の公演が中止となった。なお、学校公演の弾力化を図るため、学校の体育館等で実施するほか、複数の小学校が合同で実施する場合や生徒数の多い高校は、市町文化ホール等を利用できることとした。

また、県民芸術劇場の地元主催者（市町・学校等）が、県民芸術劇場の実施を検討する際に、公演の様子を動画で鑑賞し選択できるよう県民芸術劇場の登録団体にPR動画制作の機会を提供し、公式YouTubeチャンネルで配信した。

種 別	2年度		協会支出額(千円)	
	公演数	入 場 者 数	2 年 度	元 年 度
一般公演	17	3,354	11,291	10,777
音 楽	11	2,226		
演 劇	4	884		
伝統芸能	2	244		
高等学校公演	11	7,882	4,529	8,853
演 劇	5	4,010		
音 楽	2	930		
伝統芸能	3	2,382		
ミュージカル	1	560		
小学校公演	18	6,909	3,553	15,157
音 楽	12	3,990		
伝統芸能	4	2,397		
演 劇	2	522		
合 計	46	18,145	19,373	34,787

※中学校公演は、全ての県内中学生を対象に「わくわくオーケストラ教室」等を実施していることから、県民芸術劇場の対象外。

② のじぎくサロンコンサート【中止】

兵庫県公館において県民が気軽に楽しめるサロン風コンサートを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。

(4) 講座・体験等事業

① 兵庫県生活文化大学

日々の暮らしに夢とうるおいのある生活文化を創り育てるため、兵庫県生活文化大学を開催した。県立美術館、歴史博物館、考古博物館に講師を依頼するなど、最新の研究成果が学べる講座として、県や芸術文化団体との連携により独自性の高い学習機会を提供した。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って2講座が中止となり、8講座の実施となった。

	講 座 名	開催地	会 場	期間(回数)	受講者(人)
神戸校	文化財	神戸市	兵庫県民会館	4～2月(10)⇒ 9～3月(8)	27
	考古学 (県立考古博物館)			4～2月(10)⇒ 9～2月(6)	36
	日本美術 (県立美術館「芸術の館友の会」)			4～2月(10)⇒ 9～3月(7)	27
	西洋美術 (県立美術館「芸術の館友の会」)			4～2月(10)⇒ 9～3月(7)	37
	ふるさとの歴史			10～3月(7)	42
	音楽鑑賞 (兵庫県音楽活動推進会議)			5～3月(10)⇒ 9～3月(7)	33
	シャンソンに親しむ 【中止】			—	—
	伝統芸能【中止】	神戸市	兵庫県民会館 (講義)	—	—

		大阪市 西宮市	大阪松竹座 (歌舞伎鑑賞) 芸術文化センター (能楽鑑賞)		
明石校	ふるさとの歴史 (明石市)	明石市⇒ 神戸市	明石市生涯学習センター⇒ 兵庫県民会館	4～2月(10)⇒ 9～3月(7)	23
姫路校	ふるさとの歴史 (県立歴史博物館)	姫路市	県立歴史博物館	4～2月(10)⇒ 9～3月(8)	31
合計		10講座⇒8講座		96回⇒57回	256

※()は共催団体

② 地域と暮らしの兵庫学

摂津・播磨・但馬・丹波・淡路の五つの国からなる兵庫県のすばらしい地域文化を学ぶという従来の講座内容に、古くから伝わる伝説や歳時記、伝承の行事の様式の考察等を加えた、ふるさと意識を高める短期講座を開催した。

【開催日】 令和2年7月～3月(6回)

【会場】 兵庫県民会館 けんみんホール

【講師】 田辺 真人氏(園田学園女子大学名誉教授)

【参加者数】 186人

③ 伝統文化学び塾【新規】

伝統文化への関心を高め、学び続ける人を養成するため、県の補助を受け、箏や長唄を6回にわたって学び、発表会まで行うコースを開催した。

【開催日】 箏 コース : 稽古/令和2年7月～9月 発表会/9月

長唄コース : 稽古/令和2年11月～令和3年2月 発表会/2月

【会場】 稽古 : 兵庫県公館和風会議室

発表会 : 箏 コース 県立芸術文化センター阪急中ホール(ひょうご邦楽の祭典のプログラムとして)

長唄コース 湊川神社神能殿

【参加者数】 各コース9人

④ 伝統文化体験ひろば(伝統文化体験フェスティバル中止による代替事業)

伝統文化の新たな担い手を発掘するため、県の補助を受け、地域文化団体等の協力を得て、子どもたち(親子連れ)をはじめ不特定多数の幅広い層の県民が、様々な伝統文化を一堂に体験するブース等を開催する予定であったが、濃厚接触を伴う体験型講座が多いため、新型コロナウイルスの感染防止対策が不十分となる場合が想定されることから、代替事業として、少人数制の体験型教室を実施した。

【分野】 三味線、いけばな

【開催日】 令和3年1月29日、2月5日

【会場】 兵庫県公館和風会議室、兵庫県民会館

⑤ 伝統文化体験教室

関係文化団体等との共催で、県の補助を受け、兵庫県公館和風会議室を活用した体験教室を開催することにより、県民が伝統文化に触れる機会を提供した。

また、受講者が参加団体の講師のもとに入門するよう担い手の開拓に努めている。

【時期】 令和2年7月～3年2月

【回数】 11回

【会場】 兵庫県公館和風会議室

【内容】 伝統文化(箏、押し花、須磨琴、能楽、長唄)

【参加団体】 兵庫県箏絃連盟ほか4団体

内 容 (回数)	団 体 名	参加者(人)
箏のススメ (1)	兵庫県箏絃連盟	10
押し花創作のススメ (2)	兵庫県婦人手工芸協会	16
須磨琴のススメ (1)	一絃須磨琴保存会	8
能楽のススメ (6)	公益社団法人能楽協会神戸支部	38
長唄のススメ (1)	松耀会	7
日本舞踊のススメ【中止】	兵庫県舞踊文化協会	—
茶席のススメ【中止】	兵庫県茶道協会	—
合計	5分野 (11回) *募集定員 81人	79

⑥ 友の会会員事業の推進

芸術文化を愛し、こころ豊かな生活文化を育む人々が、芸術文化に関する学習や交流事業を通じて、生きがいつくりと会員相互の交流を図るため、友の会会員対象の事業を推進した。年々、会員数は減少傾向となっているが、県内のホールやホテル等と提携して優待価格で公演チケットを購入できたり、サービスを受けたりできるよう、会員向け特典の拡充に努めている。

兵庫県芸術文化協会友の会会員

令和3年3月31日現在

	個人会員	ファミリー会員	団体会員
友の会会費	1口 3,000円	1口 5,000円	1口 10,000円
会 員 数	650人	86人 (43組)	51団体

【特 典】・文化情報紙「すずかけ」の送付 (毎月)

- ・研修事業への参加・生活文化大学等の受講料等の割引
- ・指定美術館・博物館等の入館料割引

(ア) 研修事業の実施

県内外の人文・自然資源、文化史跡等を訪ね、先人が育んできた歴史・芸術文化にふれ、そのすばらしさを学ぶとともに、会員相互の交流と親睦を図った。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、長時間の移動や一定の人数での飲食を伴う「ふるさと文化紀行」「至宝の文化財を訪ねて」「ふれあいの旅 (海外)」「ふれあいの旅 (国内)」等は中止し、屋外ウォーキングしながら史跡等の文化遺産を訪ねる「ふるさとウォーク」のみを開催した。

【ふるさとウォーク】

催 物 名	開催年月日	場 所	参加者(人)
埴岡真弓先生と歩く 潮と酒の香る町・西宮ーエビスさんと 宮水とー	2. 10. 28	西宮市	22
計 1事業 (1回)			22

(イ) 文化情報紙「すずかけ」の送付

友の会会員に対して毎月、文化情報紙「すずかけ」を送付し、芸術文化事業のチラシを同封するなど、情報の提供を行った。

【主催事業 評価】

○表彰事業

・ふるさと文化賞

永年にわたり裏方に徹し、地域に貢献している者が日の目を見られるよう表彰する制度であり、受賞者からは、これからも継続的に取り組む気持ちになったとの声が寄せられている。今後も地元以外での発表の場を設けることによりPRに努める。また、令和3年度から大切な祭りや行事を無形民俗文化財として登録・保護している教育委員会との連携を図っていく。

・亀高文子-赤艸社賞は女性洋画家が、坂井時忠音楽賞は若手音楽家が目指す賞の一つとなっており、洋画や音楽関係者の評価も高い。また、受賞者からは、今後の活躍の励みとなっているとの声が寄せられている。

○コンクール、展示事業

・兵庫ふれあい美術展

応募作品の全てを展示し、県民の作品を披露する場として定評がある。応募総数は過去最高の 553 点で、初めての申込者が3割程度あったことが、応募が増えた要因だと考えられる。

また、3年度は、アマチュア対象の公募展である鈴懸の径絵画展を吸収し、出品者に作品運搬費用等の実費負担を求める予定である。

・亀高文子記念-赤艸社賞歴代受賞者作品展

関係者の協力のもと、亀高文子氏や受賞者の作品を一堂に展示する機会を設けることができ、歴代受賞者から喜びの声をいただくとともに、来場者からも好評を得、赤艸社賞の意義を改めて皆さんに認識いただくことができた。また、スマートフォンなどを使って展示風景を鑑賞できる「県民アートギャラリー Walk360」により、コロナ禍のなか来場が困難な者にも鑑賞の機会を提供できた。

○鑑賞機会の提供

・県民芸術劇場

コロナ禍で活動が制約されるなか、県民芸術劇場の登録団体に動画制作の機会を提供し、YouTube で配信することにより、在宅でも優れた舞台芸術を鑑賞できる機会を提供した。県民芸術劇場の多くの地元主催者(市町、学校関係者)から、公演の実施を検討する際にこの動画を鑑賞でき、参考になったとの声をいただいた。また、生の舞台を鑑賞した県民からは「安価な料金で本物の芸術鑑賞ができてありがたい。」「地方で伝統芸能に触れることができ感動した。機会があれば現地に行きたい。」などの感想をいただき、芸術文化に関心を引き付けるプログラムが高く評価されている。

○学習機会の提供

・生活文化大学

新型コロナウイルス感染拡大の影響により2講座が中止となり8講座の実施となったが、実施した講座すべてで日程変更や回数減を余儀なくされた。今後もコロナ禍での実施となるが、受講者からの「是非開講してもらいたい」という根強い要望に応えるため、感染防止対策を講じたうえで、継続して事業継続に努めた。また、新たな試みとして、受講しやすい短期型の講座を複数回企画し、受講生の獲得に努める。

・地域と暮らしの兵庫学

田辺真人氏(兵庫県文化賞受賞者)による6回シリーズの短期講座(6年目)を開講した。従来の講座内容に、伝説や伝承など新しい要素を加えて、講座名も「ふるさとひょうごの地域学」から改称した。新型コロナ感染症拡大の影響から、受講者数がほぼ半減した。

今年度は講師の都合により講座回数を4回で実施する。

○伝統文化体験機会の提供

・伝統文化学び塾

各団体から1回だけでは練習に繋がらないとの声もあり、新規事業を立ち上げ、箏と長唄を継続的に学び、その成果を大舞台で発表する機会を提供できた。受講者からは、「伝統文化に興味をもつことができ、今後も受講したい。」「素晴らしい体験ができ幸せを感じた。」などの声をいただいた。

・伝統文化体験ひろば(伝統文化体験フェスティバル代替事業)

伝統文化体験フェスティバルは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止し、代替事業として三味線といけばなの少人数制の体験型教室を実施した。3年度は、出演団体、参加者等を制限して伝統文化ふれあい広場(伝統文化体験フェスティバル改編事業)を実施する予定である。

○芸術文化協会友の会会員事業

会員数は、平成30年度個人798人/家族54組/団体68団体、令和元年度個人753人/家族54組/団体67団体、令和2年度個人650人/家族43組/団体51団体と減少傾向にあるが、生活文化大学受講や会員特典を利用した会員からは満足したとの声もいただいております。今後とも会員特典の魅力アップ等に努めたい。

2 芸術文化団体等との連携事業

(1) 市町ホール活用支援事業【新規】

市町ホールの活性化、県内公立文化施設間の連携強化を図るため、県の補助を受け、2市町のホールが音楽や演劇等の大型自主公演を共同で企画する事業を支援した。

【公演内容】 令和2年8月19日、21日

姫路市文化センター&加東市東条文化会館

こどもオペラ音楽劇「3びきのこぶた」

令和2年9月5日、6日

加東市滝野文化会館&たつの市総合文化会館

山崎バナラの活弁大絵巻

令和2年12月13日、令和3年2月7日

丹波篠山市田園交響ホール&太子町立文化会館

夏井いつき句会ライブ

【参加者】 1, 405人

【助成金額】 3, 683千円

(2) 芸術文化公演再開緊急支援事業【新規】

新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら劇場、音楽堂で芸術文化公演等の舞台芸術活動を再開する取り組みを支援するため、県の補助を受け、市町とともに施設使用料の助成（2分の1）を行った。

【期 間】 令和2年7月1日～令和3年2月28日

【対象施設】 24市町立80ホール、10民間立14ホール、5県立8ホール

【申請件数】 1, 493件

【助成金額】 48, 585千円

(3) ふれあいの祭典－県民文化普及事業

*

県民文化普及事業の22事業(うち11事業中止)について、県からの委託を受けて県内全域に文化のすそ野を拡大していくため、県域文化団体、開催市町とともに実行委員会を立ち上げ、広報宣伝・観客誘致、開催記録の作成等を担当した。

No.	事業名	開催年月日	会場	参加者(人)
1	ひょうご邦楽の祭典	2. 9. 13	西宮市	225
2	ひょうご日本民謡フェスティバル	2. 9. 20	神戸市	430
3	アンサンブル・フェスティバル兵庫 2020	2. 9. 27	西宮市	139
4	兵庫県いけばな展(神戸展)	2. 10. 1 ～6	神戸市	6, 294
5	詩のフェスタひょうご	2. 10. 3	神戸市	80
6	ひょうごブラスフェスティバル 2020	2. 10. 11	高砂市	739
7	全国手工芸コンクール in ひょうご	2. 11. 13 ～15	神戸市	791
8	兵庫短歌祭	2. 11. 21	神戸市	742
9	兵庫県いけばな展(地域展)	2. 11. 28 ～29	芦屋市	1, 368
10	ひょうご演劇祭	2. 12. 20	丹波篠山市	149
11	兵庫ふれあい美術展	2. 12. 25 ～27	神戸市	1, 675
12	音楽とダンスの祭典 in Hyogo【中止】	—	神戸市	—
13	ひょうご合唱の祭典【中止】	—	稲美町	—
14	ひょうご吟剣詩舞道祭【中止】	—	姫路市	—

15	兵庫県交響楽祭【中止】	—	丹波篠山市	—
16	兵庫県川柳祭【中止】	—	加古川市	—
17	ひょうご大茶会【中止】	—	神戸市	—
18	ひょうご俳句フェスティバル【中止】	—	神戸市	—
19	ひょうご民俗芸能祭【中止】	—	加西市	—
20	ひょうご名流舞踊の会【中止】	—	神戸市	—
21	ひょうご洋舞フェスティバル【中止】	—	西宮市	—
22	和太鼓フェスティバル in 兵庫【中止】	—	洲本市	—
合 計				12, 632

(4) 兵庫県地域文化団体協議会への支援

地域文化の向上と振興に貢献することを目的とする兵庫県地域文化団体協議会の事務局を担当し、県内7地域で活動する地域文化団体との連携を深めた。

【兵庫県地域文化団体協議会構成団体】

阪神南文化振興団体連絡協議会	阪神北文化振興団体連絡協議会
東播磨文化団体連合会	西播磨文化協会連絡協議会
但馬文化協会	丹波文化団体協議会
淡路文化団体連絡協議会	公益財団法人兵庫県芸術文化協会

① 地域文化団体との共同事業

*

兵庫県地域文化団体協議会が、各地域において地域の核となる文化団体協議会等と共同で文化事業を実施した。

文化団体名	事業名	開催年月日等
阪神南文化振興団体連絡協議会	【中止】	—
阪神北文化振興団体連絡協議会	阪神北文化セミナー	3. 1. 26 (会場:宝塚市立文化創造館)
東播磨文化団体連合会	東播磨文芸誌「東はりま文化子午線第44号」発行	3年3月発行
西播磨文化協会連絡協議会	西播磨地域ふれあい文化交流会	2. 10. 15 (会場:たつの市揖保川文化センター他)
但馬文化協会	「たじま作品集—短詩型文学第45集」発行	3年3月発行
丹波文化団体協議会	丹波における伝統文化鑑賞会	3. 2. 23 (会場:丹波の森公苑)
淡路文化団体連絡協議会	淡路文化の祭り 第39回全淡短歌祭 第44回淡路島俳句大会 第42回淡路文学作品展	2. 7. 18 2. 11. 8 2. 11. 25~12. 5 (会場:洲本市立淡路文化史料館他)

② 地域文化を考えるシンポジウム【中止】

地域文化の活性化を図るため、但馬地域に県内市町文化協会・団体の会員が一堂に会し、地域における文化振興の現状や課題、地域の特徴を生かした事業の推進方策等について情報交換を行うシンポジウムが計画されたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止された。

(5) ひょうご文化交流のつどい【中止】

*

県域文化団体等の協賛のもと、様々な分野の文化関係者が一堂に集い、交流・親睦

を深める場を作り出すことにより、芸術文化活動の一層の発展を図ろうとしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止した。その代替企画として、文化情報誌「すずかけ」12月号に、各分野の芸術文化関係者から寄せられたメッセージを掲載して「紙上交流会」を実施した。

(6) 芸術文化団体等の事業への支援

芸術文化団体等が主催する文化振興事業に対し、後援、協賛するとともに、優秀作品に「兵庫県芸術文化協会賞」を贈った。

【後援事業件数】 128件

【協会賞交付件数】 42件

(7) 兵庫県文化賞受賞者懇話会への支援

兵庫県文化賞受賞者で構成される、兵庫県文化賞受賞者の事務局運営等を支援し、芸術文化の振興を図った。

*…その他（芸術文化団体との連携事業）に区分される事業

【芸術文化団体等との連携事業 評価】

○市町ホール活用支援事業

2市町が共同で行う自主舞台公演の出演料の支援であり、コロナ禍のなか、相方が公演中止となれば助成対象から外れるというリスクを伴うことから、3事業への支援に留まった(当初は5事業程度を予定)が、観客からは「楽しい時間を過ごせた。」「コロナ禍での実施に感謝する。」などの意見をいただいた。

○芸術文化公演再開緊急支援事業

年度当初の全国的な緊急事態宣言により舞台芸術活動が中止・延期を余儀なくされていたところ、同宣言解除後の舞台公演を開催する取り組みに支援できたことは、キャンセルを食い止め、芸術文化活動の支援と参加機会の提供への一助となった。

○ふれあいの祭典—県民文化普及事業

新型コロナウイルスに翻弄された1年であり、実施予定事業の2分の1が開催中止となったことにより、前年度より参加者が20,000人程度減少した。

また、個々の事業では県域芸術文化団体及び関係市町の協力を得て実施することで、地域の文化振興と県民の交流の輪を広げることに繋がっており、参加者の満足度は94.5%(前年度90.1%)と高い。

○地域文化団体との共同事業

兵庫県地域文化団体協議会が、地域の核となる文化団体協議会等と共同で毎年開催している文化事業が新型コロナウイルスの影響で実施できず、地域の特色を生かしたセミナーや鑑賞会に替えて実施し、地域文化の振興に寄与した。

また、令和3年度は共同事業費を上乗せし、伝統文化の継承に繋げていく。協会としては、実践的な活動事例の紹介や各種助成金情報の提供に努めるなど、文化会館等関係機関との協力・連携体制を強めていく。

○地域文化を考えるシンポジウム

「文化活動を活かした魅力あるふるさとづくり」をテーマに、朝来市でシンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により開催が困難となったが、地元の強い思いにより、令和3年度も同市での開催が決定している。

○ひょうご文化交流のつどい

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったが、代替事業として県内文化関係者からメッセージを募集して文化情報紙「すずかけ」に掲載し、紙上での交流会を開催した。「新しい生活様式が提唱される今こそ、音楽は人々に癒しと活力を与え、未来への夢や希望に繋がると信じている」「人が人らしく幸せに生きること、心を豊かにしてくれる芸術の大切さを感じさせられた」などのメッセージなどをいただき、一定の代替効果を得ることができた。

3 ひょうごアーティストサロンによる県内アーティストへの支援事業

芸術文化コーディネーターと顧問を配置し、新進・若手芸術家に対する相談・助言や発表機会の提供など人材育成支援を図った。

(1) 芸術文化関係者の交流・連携の促進

様々な分野の芸術文化関係者がアーティストサロンに集い、出会い、語らいの場として利用され、交流の拠点としてサロン機能を発揮した。

【来場者数】 3, 389人

(2) 相談・助言・斡旋事業の実施

芸術文化情報の収集・発信を通して蓄積した人材情報等に基づき、初心者から若手、中堅を問わず芸術文化活動に関する企画・PR方法等、様々な相談に応じた。また、新進若手アーティストの情報を「ひょうごアーティストバンク」としてホームページに掲載した。

【相談件数】 325件

(3) 若手アーティストの育成・支援

兵庫県民会館を活用して、新進・若手芸術家の作品展、演奏会を開催した。

① 新進美術家作品展の開催

県内各美術団体の協力を得て、芸術文化コーディネーターのもと、新進作家を中心とした作品展を開催した。

・ひょうごアーティストサロン内

事業名	開催年月日	出展人数(人)	入場者(人)
兵庫二紀会選抜展	2. 4. 2~4. 7 ※4.8~5.30 中止	2	14
兵庫県写真作家協会新進作家選抜展	2.6.1~7.31	7	109
兵庫県美術家同盟新進作家展	2.8.1~9.29	9	169
兵庫の工芸 壁面を飾る	2.10.1~11.30	4	110
兵庫県書作家協会選抜展	2.12.1~3.1.30	6	95
兵庫県日本画家連盟選抜展	3.2.1~3.30	8	234
合計	217日	36	731

・兵庫県民アートギャラリー特別展示室

事業名	開催年月日	出展人数(人)	入場者(人)
～日本画～跳展 (tyou ten)	2. 9. 9~13	7	628
－兵庫県書作家協会々員の愛蔵品－ 文房清玩展	3. 2. 3~7	5	256
兵庫県洋画団体協議会 選抜作家展	3. 3. 3~7	32	668
合計	15日	44	1,552

・兵庫県民アートギャラリー大・中展示室

事業名	開催年月日	出展人数(人)	入場者(人)
兵庫県美術作家交流展 新進・選抜・プラス	2. 12. 9~13	101	674

② 県民会館ロビーコンサートの開催

兵庫県民会館のロビーを活用した経験の浅い若手音楽家のコンサートを開催し、活動発表の場を提供した。また、兵庫県いけばな協会の協力により、ロビーに生け花を添えて芸術文化に親しむ環境の充実を図った。

【開催日】 令和2年6月から7月まで(3回)

4月から5月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止。8月以降は、事業内容が拡充された芸術文化施設ロビーコンサート(新規事業)に移行した。兵庫県民会館のロビーの一部がフローリングに改装されたことにより、よりよい音響効果のもとで開催できた。

【会場】 兵庫県民会館ロビー

【鑑賞者】 約120人(約40人/回)

③ 芸術文化施設ロビーコンサート【新規】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公演等の中止が相次ぎ、県内の新進・若手アーティストの活動の場が大幅に減少していることから、会場の対象を県内の芸術文化施設等へ広げ、出演への感染症対策費用を出演料に盛り込むなど、従来の県民会館ロビーコンサートの事業内容を拡充した「芸術文化施設ロビーコンサート」を実施した。

【開催日】 令和2年8月から令和3年3月まで（16回）

【会場】 兵庫県民会館ロビーほか県内の施設

【鑑賞者】 約1,100人（約70人/回）

④ さわやかステージ+【新規】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、県内の芸術家、芸術団体の活動が大幅に減少していることから、芸術家の活動支援と県民の鑑賞機会の提供を目的に、県、市町及び関係団体等が主催するシンポジウム、フォーラム、セミナー等、各種のイベントにおいて芸術文化の香り高い演出を行うミニ・パフォーマンス「ひょうごさわやかステージ+（プラス）」を実施してもらうよう働きかけた。従来の「さわやかステージ」では出演者を斡旋し、必要経費は実施施設負担としていたところ、令和2年度は、より実施してもらいやすい環境づくりを目指し、その出演料を負担した。

【開催日】 令和2年9月から令和3年3月まで（12回）

【会場】 兵庫県公館ほか

【鑑賞者】 1,200人（約100人/回）

⑤ 新進芸術家育成事業の実施【拡充】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、県内の芸術家、芸術団体の活動が大幅に減少していることから、芸術文化を担う人材の育成につながる取り組みとして、将来の活躍が期待される新進・若手アーティストに対し、県内のホール等を活用して感染症拡大予防に対応したリサイタル形式による演奏会「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ+（プラス）」の場を提供するとともに、県民の鑑賞機会を提供した。従来の「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ」では、出演者はチケット収入を公演経費に充てていたが、コロナ禍のもと、チケット収入が見込めなくなったため、入場料を無料とし、出演者には出演料を当協会が負担するよう事業内容を拡充した。

従来実施していた事業「新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ」と同様に、兵庫県いけばな協会の協力により舞台に生け花を添えて鑑賞者に対して芸術文化に親しむ環境のさらなる充実を図った。

事業実施にあたっては、出演者に自身の公演チラシ等の印刷物を作成してもらい、それをアドバイスするなど、今後公演する際に直接役立てられるよう支援を行った。

新進芸術家育成プロジェクト・リサイタルシリーズ+の開催

事業名	開催年月日	会場	いけばな	入場者(人)
西尾岳史バリトンリサイタル【中止】	2.6.11	兵庫県民会館 けんみんホール	—	—
西川かをり箏・三絃リサイタル	2.8.27	兵庫県民会館 けんみんホール	田中とき子(池坊)	100
秋元孝介ピアノリサイタル	2.9.18	兵庫県民会館 けんみんホール	山根裕子(真生流)	92
坂本彩ピアノリサイタル	2.10.1	兵庫県民会館 けんみんホール	西村崇(佳生流)	102
植村翔馬クラリネットリサイタル	2.10.30	兵庫県民会館 けんみんホール	広川英男(池坊)	146
藤原功次郎トロンボーン	2.11.6	兵庫県民会館	稲泉千永(千草真)	150

リサイタル		けんみんホール	流)	
富田一樹パイプオルガン リサイタル	2.11.20	宝塚ベガ・ホール	中山高甫(未生流中 山文甫会)	170
蔭山晶子クラリネットリ サイタル	2.6.19⇒ 2.12.4	兵庫県民会館 けんみんホール	松井博士(小原流)	144
江崎欽次朗能楽鑑賞会 菊慈童	2.12.13	湊川神社神能 殿	米田さち圃(未生流 (庵家))	125
城綾乃ピアノリサイタル	3.1.8	兵庫県民会館 けんみんホール	米田さち圃(未生流 (庵家))	120
喜多ちひろヴァイオリン リサイタル	2.7.31⇒ 3.1.22	兵庫県民会館 けんみんホール	成瀬香泉(知香流)	96
森理菜ピアノリサイタル	3.1.25	兵庫県民会館 けんみんホール	広川英男(池坊)	99
宇野友基子ハープリサイ タル	3.2.8	兵庫県民会館 けんみんホール	梶山恵甫(未生流)	91
山本美樹子ヴァイオリン リサイタル	3.2.22	兵庫県民会館 けんみんホール	深山佳代甫(未生流 中山文甫会)	132
堀裕貴ピアノリサイタル	2.5.28⇒ 3.2.25	兵庫県民会館 けんみんホール	畠田基超・岡島眞草 (草月流)	113
細谷公三香(チェロ)と仲 間たち	3.3.11	兵庫県民会館 けんみんホール	橋本智月(嗟峨御流)	158
福嶋令奈ヴァイオリンリ サイタル	3.3.12	兵庫県民会館 けんみんホール	山根裕子(真生流)	122
山中歩夢ピアノリサイタ ル	3.3.19	兵庫県民会館 けんみんホール	松井博士(小原流)	168
田中郷子ソプラノリサイ タル	2.4.24⇒ 3.3.26	兵庫県民会館 けんみんホール	伊藤洸明(御室流)	160
河内仁志ピアノリサリサ イタル	3.3.29	兵庫県民会館 けんみんホール	西村翠雲(佳生流)	181
合 計 19公演				2,469

⑥ ひょうごアーティスト動画配信事業【新規】

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、アーティストの活動が著しく減少し、県民が劇場や美術館へ足を運びにくくなった状況のもと、兵庫県ゆかりの新進・若手アーティストが出演・制作した動画作品を公式 YouTube チャンネルで配信した。

また、第2弾として、兵庫県の芸術文化を第一線でリードしているアーティストの動画作品を配信した。

【配信数】 第1弾 82件
第2弾 27件 合計109件

⑦ ひょうごアーティストサロン賞(再掲)

ひょうごアーティストサロンの事業に積極的に参加し、将来一層の活躍が期待される新進・若手芸術家及びサロンの企画・運営に協力的な指導者に「ひょうごアーティストサロン賞」を贈呈した。

【県内アーティストへの相談・助言等支援事業 評価】

○ 芸術文化関係者の交流・連携の促進(サロン機能)

芸術文化コーディネーターと顧問が豊富な知識・経験とネットワークを活かし、多様な分野、幅広い年齢層の芸術文化関係者が気軽に集い、交流・連携を生み育てるサロン機能を発揮できた。コロナ禍のもと、利用者は減少したが、活動支援関連の事業の情報をアーティストに提供できた。

○ 相談・助言の実施(情報の発信機能)

平成18年度のオープン以来、情報発信、相談活動を継続しており、若手アーティスト等の情報発信を行う貴重な拠点として認知されるようになった。新規事業としてさわやかステージ+の事業を展開し、これまで活用がなかった表彰式やイベントで実施されたことから、コロナ禍でも新進若手アーティストの発表の機会が提供できた。

○ 若手アーティストの育成・支援(発表の場の提供機能)

兵庫県民会館でこれまで毎月1回定期的に開催されていた「県民会館ロビーコンサート」は、新型コロナウイルス感染拡大により兵庫県民会館が休館となったため、6月から7月にかけて3回実施した。その後8月からは、新規事業「芸術文化施設ロビーコンサート」として、兵庫県民会館ロビーで14回、その他の施設ロビーで2回実施した。客席を半分に、ロビーでは鑑賞希望者に検温、手指消毒をしてもらうなど、感染防止対策を講じながらではあるが、誰もが気軽に音楽を楽しんでもらえる空間が創出できた。次代を担う若手アーティストらの活動成果の発表機会、気軽に県民が芸術文化に触れる機会の提供ができた。

○ 新進芸術家育成事業の実施

これまで芸術文化を担う人材の育成につながる取り組みとして、将来の活躍が期待される若手アーティストに発表の場を与えようと、兵庫県民会館けんみんホールを活用した「新進芸術家育成プロジェクト・リサイクルシリーズ」を開催していたが、コロナ禍の中、動員も厳しくなったうえに、収容人数を50%以下にしての実施が必須となったことから、出演者のチケット収入の見込みがなくなり、事業実施が困難となった。

そのため、入場料無料とし、その代わりとして出演料を当協会が出演者に負担する新規事業「新進芸術家育成プロジェクト・リサイクルシリーズ+ (プラス)」を企画。開催場所も県民会館だけではなく、県内の芸術文化施設でも開催可能とした。結果として8月から兵庫県民会館で16公演、その他の施設では2公演を実施。宝塚バガオールではパイプオルガンコンサート、湊川神社神能殿では能楽鑑賞会を開催するなど、会場の特色に応じた公演が開催できた。

無料公演としたことで新規の来場者が増え、回を重ねる中でリピーターの増につながった。出演者からも「このような厳しい状況の中、発表の機会を与えてもらったことに感謝したい」などの言葉をいただいた。

また、引き続き、兵庫県いけばな協会の協力による舞台花とのコラボレーションを行って、芸術文化を担う人材の育成に努めた。

○ ひょうごアーティスト動画配信事業

コロナ禍のもと、アーティストや芸術文化関係者の公演中止に伴う発表機会の喪失、収入減少および県民の芸術文化に触れる機会減少の解消を目指して、動画配信事業を展開し、これまで芸術文化関係者以外にあまり知られていなかったアーティストやその業績を視聴者に周知できた。また、新たなアーティストの発掘のみならずネットワークの構築にもつながった。作品に出演したアーティストからは「ノルウェーの展覧会に出展しないかと話をもらった」「今回の動画作品が英国のコンペで入賞した」「動画を視た舞台関係者から公演の出演オファーをもらった」などの声をいただいた。昨年度の動画の視聴回数は、第1弾 99,000回、第2弾 11,000回の合計 11万回となっている。

また、兵庫県ワシントン州事務所から依頼があり、県民芸術劇場 PR 動画とあわせて 10 作品を提供しており、4月にオンライン開催された「2021 シアトル桜祭り」のホームページや同事務所の YouTube チャンネルで一部の動画が配信されている。6月にオンライン開催されるイベント「ジャパン・フェア」でも配信予定となっている。

昨年8月に実施された神戸大学大学院国際文化学研究科の藤野研究室が行う「新型コロナウイルスの影響下における兵庫県内の芸術文化活動に関するアンケート調査」において、調査に参加した芸術文化に関わる個人・団体等から「活用している、または活用を検討している支援策や制度」として高い評価をいただいた。

4 情報の提供

(1) 文化情報紙「すずかけ」の発行（再掲）

研修事業、芸術文化協会主催事業、芸術文化団体主催事業など、芸術文化に関する情報を提供し、芸術文化活動への参加を促すとともに、関心を高めた。

【仕様】 タブロイド版、6ページ、2色刷り

【発行】 毎月1回 各5,000部

※緊急事態宣言発出により、県内の文化施設等が閉館し、事業中止も相次いだことから、6月号は休刊、5月号及び7月号は減ページとし、ひょうご文化交流のつどいの開催が中止となり紙面上で交流を図っていただくため、12月号は増ページへと仕様変更をした。

【内容】

- ・研修事業、県内の芸術文化事業
- ・芸術文化センター事業、ピッコロシアター事業
- ・文化人紹介（素顔拝見）
- ・季節の花の名所や味どころ、歴史的・文化的な名所の紹介（花さんぽ味めぐり）4月号
- ・県内の城跡を中心に、歴史的・文化的な名所、テイクアウトの名店等を紹介（兵庫の城跡を訪ねて）5月号～3月号
- ・各種文化情報

【配布先】 友の会会員、文化団体、県内各市町文化施設、報道機関ほか

(2) 文化情報の提供

兵庫県民会館に、文化情報紙、県内施設等の催し物案内チラシ等を配架し、多彩な文化情報を提供した。

(3) ホームページの運営 (<https://hyogo-arts.or.jp>)

協会概要や本部事業、各施設の公演、展覧会事業等を幅広く紹介した。また、セキュリティ対策（全ページSSL化）及びスマートフォン最適化を講じたリニューアルを実施した。

【内容】

- ・協会概要
- ・事業案内（協会主催事業等）
- ・管理施設へのリンク

【アクセス数】 66,982件（令和2年4月～令和3年3月）

(4) その他多面的な広報活動

① SNSの運営（拡充）

・YouTubeチャンネルでの動画配信のほか、Twitter、Facebook、Instagramを活用して、アーティスト動画やコンサート開催等の告知を行うなど、情報発信を強化した。

② マスメディア等による情報提供

・テレビ、ラジオ、新聞等への記者発表、資料配布等

・各種情報誌への情報提供

・動画の出演アーティストの出身校や所属団体への情報提供

③ 県広報媒体の活用

・サンテレビ県民情報番組「ひょうご発信!」、兵庫県ワシントン州事務所YouTubeチャンネル等

④ 県内文化施設等多様なチャンネルを活用した情報提供

県立美術館、県立歴史博物館、県立考古博物館等事業を共催している施設と連携してPRを行うほか、県内の文化施設や図書館、各教育機関を通じて情報発信を行った。

【情報の提供 評価】

○ 文化情報紙「すずかけ」の発行

月1回、芸術文化に関する情報を提供し関心を高めた。芸術文化活動への参加を促すとともに、読者からは兵庫の芸術文化に関するきめ細かな情報が得られるとして好評を得ている。今後はWEBと連携するなど、さらなる充実した展開を図っていきたい。

○ 文化情報の提供

兵庫県民会館に情報コーナーを設けて、県内の芸術文化情報を提供し、常に最新情報とすべく頻繁に更新しており、利用者に喜ばれている。

○ ホームページの運営

協会概要や本部事業のみならず、芸術文化センター、ピッコロシアター、県民会館、王子分館のホームページにリンクし、各施設の公演、展覧会事業等を幅広く紹介し、施設、事業のPRとともに文化情報の発信を促進した。また、セキュリティ強化やスマートフォン最適化を行った。

○ その他多面的な広報活動

SNSを本格的に活用したり、ホームページにアクセスしやすいように印刷物にQRコードの表示したりすることで、当協会の認知度が高まるとともに新たな顧客層の掘り起こしにつながった。今後もホームページや文化情報紙「すずかけ」と連動した効果的な運用に努める。

〔県立美術館王子分館関係〕

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

基本方針

「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」の策定による感染症対策の徹底

〔原田の森ギャラリー〕

- ◆令和2年4月7日：新型インフルエンザ等対策特別措置法による「緊急事態宣言」
発出（措置期間：4/8～5/6まで、のち5/31まで延長）

臨時休館（兵庫県対応方針による）

臨時休館 4月8日～5月31日

全面的な再開までの様々な対応

- ①展示室、会議室の利用団体等の予約者への連絡及び日程変更調整、キャンセル対応を行い、利用料金を納めた者については全額返還を行った。
- ②展示室・会議室を利用する美術団体、教室等主宰者に対し、再開にあたっての注意事項（健康チェック、利用者の連絡先の把握、手指消毒・マスク着用、定期的な換気、利用人数の制限等）、感染拡大防止対策ご協力をお願いについて、書面により通知した。

再開後の対応（第2回・第3回緊急事態宣言期間含む）

- ① 館内感染症対策としては、以下を実施した。
 - ・施設出入口に赤外線カメラ・消毒液の設置
 - ・展示室、会議室への非接触型体温計、アクリルパネルの設置
 - ・空調設備改修による換気能力の向上
- ② 施設のPR動画の作成、YouTube 配信

〔横尾忠則現代美術館〕

- ◆令和2年4月7日：新型インフルエンザ等対策特別措置法による「緊急事態宣言」
発出（措置期間：4/8～5/6まで、のち5/31まで延長）

臨時休館（兵庫県対応方針による）

兵庫県立横尾救急病院展

臨時休館 3月4日～3月15日 3月20日午後～5月31日

6月2日に感染対策を実施の上再開、当初会期（5月10日まで）を8月30日（日）まで延長

全面的な再開までの様々な対応

臨時休館中の利用者サービスとして、「#おうちで YMOCA」のハッシュタグで、美術館の公式ツイッター、フェイスブックに展示会の魅力を連載で投稿し発信した。

再開後の対応（第2回・第3回緊急事態宣言期間含む）

- ① 再開後も、新たに館のPR動画（※）を作成、YouTube 配信等を行い、美術館の魅力を発信し、ファン層開拓に取り組んだ。
※横尾忠則×草刈民代の世界—アートとダンスの競演—「in between」、
「美術館の舞台裏（全7回）」等
- ① ギャラリートーク等については、対面形式、YouTube 配信の併用で対応した。
- ② オープンスタジオコンサートについては、館内では原則中止とした。
- ③ 館内感染症対策としては、以下を実施した。
 - ・施設出入口に赤外線カメラ・消毒液の設置
 - ・展覧会開催期間中の清掃・清拭の強化（通常の清掃に加え、階段手摺やエレベーター操作盤、テーブルなどの清拭を追加）
 - ・抗ウイルス・抗菌コーティング（HBE）の施工（入館者情報記入台、受付カウンター、ミュージアムショップ陳列台、ソファ、トイレ、階段手摺、エレベーター内等）ほか
- ④ 展示等企画面におけるコロナへの対応
 - ・「兵庫県立横尾救急病院展」はコロナ禍前に企画された展覧会であったが、コロナ禍を予言したかのような展示内容はメディアでも注目された。同展は、6月の再開後にコロナ禍を踏まえた構成となるよう大幅な展示替を行った。
 - ・5月下旬から横尾氏がSNSで発信し続けている「WITH CORONA」のマスクアートとのコラボレーションポスターを制作し、全国の美術館に発送した。
 - ・「横尾忠則の緊急事態宣言」では、コロナ禍のはるか以前から作家が描いてきた様々な危機的状況に注目した展示を行った。

※事業の詳細は、以下の報告内に記載

県立美術館王子分館の管理・運営

兵庫県立美術館王子分館の指定管理者として、横尾忠則現代美術館において展覧会、公開制作やコンサートなど各種催しを開催し、芸術文化に関する情報発信や情報収集を行うとともに、原田の森ギャラリーでは、地域のプロ・アマチュア芸術家の発表の場としての役割を果たすよう管理・運営に努めた。

【所在地】 神戸市灘区原田通3丁目8番30号

【施設】 〈原田の森ギャラリー〉 本館（1・2階展示室）、東館（1・2階展示室）、会議室等（5室）

〈横尾忠則現代美術館〉 アーカイブルーム、展示室（2・3階）、コレクションギャラリー、休憩・交流スペース
オープンスタジオ、ミュージアムショップ、インフォメーション

〈喫茶棟〉

〈附属駐車場〉 31台

1 原田の森ギャラリーの管理・運営

① 貸しギャラリー等の実施

公立美術館としては全国最大規模の貸しギャラリーや実技教室を有し、洋画・日本画・書道・彫塑等の作品発表、並びに絵画教室等への提供施設として活用いただくとともに、造形芸術の活動・交流・情報発信拠点づくり及び創作活動の発表の場づくりに努めた。

また、新型コロナウイルス感染防止策として、施設の出入口に赤外線カメラ・消毒液の設置。展示室・会議室では、非接触型体温計、飛沫防止対策としてアクリルパネルの設置など行った。施設整備として、老朽化していた東館展示室の空調設備を高機能換気設備に更新し、換気能力を高め空気環境の改善を行った。

・利用状況

【来館者数】 53,703人

【利用状況】 (単位：日、%又は台、()内対前年比)

施設名	室数等	開館日数	利用日数	利用率
展示室	4室	1,040	508(46.6%)	48.8(54.6%)
会議室等	5室	1,300	685(78.7%)	52.7(92.5%)
駐車場	31台	260	260(85.2%)	8,549台(64.3%)

【利用料収入状況】

(単位：円、税込)

区分	金額 ()内対前年比	区分	金額 ()内対前年比
展示室	10,992,550(50.6%)	附属設備	235,800(80.5%)
会議室等	3,921,540(78.1%)	駐車場	4,194,200(58.0%)
収蔵庫	4,281,100(93.1%)	便利施設	382,122(76.4%)

※新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針により、令和2年4月8日～5月31日まで臨時休館

② ギャラリー運営会議の実施

広く公平・適正な利用を推進するとともに、効率的・計画的なギャラリー運営の円滑化を図るため、絵画、美術・工芸、書等の専門家で構成されるギャラリー運営会議を開催し、貸出計画案の承認を得た。令和2年度については、2021年4月から2023年3月までの利用調整のため、3回の運営会議を開催した。

- ・第1回運営会議 令和2年6月10日
- ・第2回運営会議 令和2年9月9日
- ・第3回運営会議 令和3年2月17日

③ 情報の提供・広報

(ア) ホームページの運営 (<http://hyogo-arts.or.jp/harada>)

【内容】施設概要、利用案内、空室情報、展覧会案内 等

(イ) 催し物案内の配布

【配布先】灘区各所、県民会館、他関係施設・公共施設等

【原田の森ギャラリーの管理・運営 評価】

○施設の利用状況

ギャラリー（本館・東館の4展示室）の利用率は、近年約90%と安定した利用率を維持してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、キャンセルが相次ぎ、最終的に48.8%と大きく落ち込んだ。(①89.4%②91.4%)。先の見えない状況のなか、開催できるか不安になっている展示室・会議室利用者に対し、意向を確認しながら利用調整を図り、感染症対策を講じて開館にあたった。

○アンケート調査

展示室利用者を対象としたアンケート調査では「非常に満足」「満足」の合計は、職員の応対98.4%、施設を利用した全般的満足度は100%であった。

○情報の提供と発信

マスコミや情報誌等のほか、公共施設・近隣店舗への情報提供に加え、ホームページやツイッター、フェイスブック、インスタグラムのSNSなどで、展覧会・イベント情報などを掲示し、常にタイムリーな情報発信の強化に努めた。また、YouTubeチャンネルに施設のPR動画を配信している。

2 横尾忠則現代美術館の管理・運営

横尾忠則氏の優れた作品等について広く県民に鑑賞する機会を提供するため、横尾作品を中心とする展覧会の実施、展示室内での著名ダンサーとのコラボレーション動画の発信など、様々な事業を展開する美術館として運営を行った。

また、横尾忠則氏のもとに保管されていた多彩なコレクションや資料などを様々な角度から紹介するため、美術館4階フロアを改装し、新たな展示室「横尾忠則コレクションギャラリー」として整備するとともに隣接する休憩コーナーも眺望を生かした休憩・交流スペース「キュミラズム・トゥ・アオタニ」として整備、公開した。

【来館者数】29,766人

【入場者数】13,590人

① 横尾作品を中心とした展覧会の開催

展覧会名	兵庫県立横尾救急病院展	
開催期間(日数)	令和2年2月1日(土)～8月30日(日)(164日) 新型コロナウイルス感染防止のため、 ※臨時休館 3月4日～3月15日 3月20日午後～5月31日 ※当初の会期(5月10日まで)を8月30日(日)まで延長 ※再開 6月2日(火)	
入場者数(人)	2年度分 6,693人	会期全体 9,811人
うち有料入場者数 ・有料入場率	2年度分 5,350人・68.2%	会期全体 7,662人・78.1%

内 容	<p>観念や精神ではなく肉体感覚を重視し、「肉体が発する声なき声に耳を傾ける」ことを心がけてきた横尾にとって、自分自身の肉体にまつわる様々な事象はつねに関心の的であった。本展では、精神世界から肉体に目を向け始めた 1980 年代から「古い」を見つめる現代まで、美術館をまるごと病院に見立てた演出により、実生活や創作の現場における横尾の「肉体」に対する意識を作品や資料から紹介した。</p> <p>【出品点数：約 80 点】</p>
-----	---

展 覧 会 名	横尾忠則の緊急事態宣言
開催期間（日数）	令和 2 年 9 月 19 日（土）～12 月 20 日（日）（80 日）
入場者数（人）	6,501 人
うち有料入場者数 ・有料入場率	4,716 人・ 72.5%
内 容	<p>コロナ禍が起こるはるか以前から、横尾忠則は、虚実が交錯するような緊迫した状況を繰り返し描いてきた。今回は、横尾の絵画における、そうした危機的状況の表現に注目した。またコロナ禍に反応するかたちで、横尾は現在、様々なビジュアルにマスクや口腔のイメージをカラーージュする作品《With Corona》をウェブ上で展開している。本展ではそれらを展示空間各所に散りばめるようなインスタレーションもあわせて行った。</p> <p>【出品点数：約 60 点】</p>

展 覧 会 名	Curators in Panic～横尾忠則展 学芸員危機一髪
開催期間（日数）	令和 3 年 3 月 27 日（土）～8 月 22 日（日）（128 日）
入場者数（人）	2 年度分（4 日間） 396 人（R3.3.31 現在）
うち有料入場者数 ・有料入場率	2 年度分（4 日間） 255 人・ 64.4%
内 容	<p>2021～2022 年にかけて各地で行われる横尾氏の大規模巡回展への主要作品貸出という、学芸員にとっての非常事態に敢えて作品の不在を強調し、その存在を浮かび上がらせる企画展。残った収蔵品から学芸員 3 人が選んだ「推し作品」を展示。選抜メンバーを逃した「うちの子」たちへの愛情を語る。混乱の中での美術館活動を映し出す試みである。</p> <p>【出品点数：約 70 点】</p> <p>[同時開催] YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021（前期展）</p>

② 貴重なアーカイブ資料の整理と公開

アーカイブでは、横尾氏のもとに保管されていたイラストやポスター、デザイン原稿をはじめ、蔵書・関連記事の掲載誌、レコード収集品など多岐にわたる資料を受け入れ、順次、整理・公開していく。資料整理をより円滑に行うため、博学連携として甲南大学（令和 2 年度 11 名）の博物館実習生を平成 26 年度から受け入れており、新たに神戸芸術工科大学、甲南女子大学の博物館実習生を令和 3 年度より受け入れ予定である。

※ 武蔵野美術大学美術館・図書館と掲載雑誌資料の調査及びデータベース構築を目的とした共同調査事業を行ってきた連携事業は調査完了により令和元年度で終了

※ 令和2年度の神戸芸術工科大学インターンシップ生の受入れは、新型コロナウイルス感染拡大により大学側から辞退の申出があり中止。令和3年度より復活予定。

【令和2年度実績】

- ・博物館実習生：甲南大学 11名
- ・インターン生：0名

(ア) 整理

- (a) 整理済み資料 (4,680点)
- (b) ウェブサイトで公開している資料リスト (3,775点*)
* a から個人情報を含んだ資料等を除いたもの

(イ) 公開

- (a) 整理済み資料については閲覧可能 (無料、要予約、個人への貸出不可)
- (b) これまでの利用実績：91件 (美術館関係者、研究者、学生、デザイナー等)

(ウ) 展示

企画展等での展示に供している。

③ オープンスタジオを活用した多彩なイベントの実施

(ア) 企画展関連事業

企画展ごとに、展示内容と密接に関連したイベントを計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止や延期を余儀なくされた。臨時休館中の利用者サービスとして、「#おうちで YMOCA」のハッシュタグで、美術館の公式ツイッター、フェイスブックに展覧会の魅力を連載で投稿し発信した。また、新たな取り組みとして、YouTube での動画配信などを開始。ギャラリー・トークや、展示室の横尾作品をバックにしたパフォーマンスなど、今しかできない映像を制作し、YouTube で配信するとともに、1階オープンスタジオでも映像を公開し、来館者に好評を得ている。

〔兵庫県立横尾救急病院展〕

(単位：人)

事業名	実施年月日	講師	参加者数
キュレーターズ・トーク	2.4.18	講師：当館学芸員	中止
ギャラリー・トーク ★YouTube 配信	2.8.1	講師：当館学芸員	視聴数 1,320回 (R3.3月末)
小 計 (1事業)			1,320

〔横尾忠則の緊急事態宣言〕

事業名	実施年月日	講師	参加者数
キュレーターズ・トーク	2.10.16	講師：当館学芸員	19
	2.11.20	講師：当館学芸員	19
	2.12.11	講師：当館学芸員	15
	2.12.12	講師：当館学芸員	19
開館8周年記念福引イベント	2.11.3		190
ラウンドテーブル・トーク	2.11.21	講師：当館学芸員	25
ギャラリー・トーク ★YouTube 配信	2.11.28	講師：当館学芸員	視聴数 1652回 (R3.3月末)

In between 横尾忠則×草刈民代の世界 ーアートとダンスの競演 ー ★YouTube 配信	2.11.30 (収録)	出 演：草刈民代 森 優貴 映像演出：周防正行	視聴数 12,926回 (R3.3月末)
地域連携イベント関連 福引イベント	2.12.5		150
小 計 (9事業)			15,015
合 計 (10事業)			16,335 (うちオンライン参加 15,898)

*このほか、「Curators in Panic～横尾忠則展 学芸員危機一髪」及び「YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2021」前期展においても、学芸員のトーク動画を制作した（配信は令和3年5月から順次）。

(イ) オープンスタジオコンサート等（当館1階）

地域のにぎわいづくりと、当館の新たなファン層の拡大をめざし、県内を中心に活動する優れた音楽家等によるコンサートを計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの観客を集めるイベントの開催は自粛した。そのような状況下、新設したYouTube公式チャンネルでは、「Y+TMOCAの舞台裏」と題し、学芸員の仕事を紹介する動画を制作、配信を開始した。また、地域連携イベントにあわせ、福引き抽選会を開催し、来場者にお楽しみいただいた。

(単位：人)

事業名	実施年月日	出演者	参加者数
ICU (ILL CUT UNDER SKIN)	2.4.11	RIP×VEXATION SOUL 荒木堇、フルカワタカシ他	中止
播磨室内合奏団「ショスタコー・ヴツチ・チクルス vol.5	2.9.27	嶽崎あき子 (V1 1)、立花礼子 (V1 2) 奥村英樹 (V1a)、高橋乗子 (Vc)	中止
1 DAY JAZZ 名盤レコードコンサート	2.11.7	三浦紘朗 (進行)	中止
Y+TMOCAの舞台裏 全7回 ★YouTube 配信	2.9.25～	講師：当館学芸員	視聴数 2,925回 (R3.3月末)
地域連携イベント ちんどん屋ライブ パレード	2.12.5	ちんどん通信社	800
合 計 (2事業)			3,725 (うちオンライン参加 2,925)

④ 作品・資料等の保存・修復活動

収蔵作品及び資料を良好な状態で保存するため、劣化要因（温湿度、光、空気汚染物質、有害生物など）を制御、排除することで、館内環境を良好に保つよう努めている。保存・修復に際しては、作品の現状維持修復を原則とし、必要最小限度の修復処置を心がけることで、オリジナルの価値を損なわないように配慮しながら管理している。

⑤ 連携によるにぎわいづくり

(ア) 地域との連携

(a) 地域住民・商店街等との連携

- ・ポスター・チラシの配布、地元イベントへの参画、開会式への招待等
- ・灘区が地域住民と実施している「灘総合芸術祭」実行委員会への参加
- ・12月には水道筋商店街や王子動物園を巡る「ちんどん屋ライブパレード」を開催し、地域住民に美術館をPRする絶好の機会となった。

(b) 周辺施設との連携(神戸文学館、灘区民ホール、王子動物園、BBプラザ美術館等)

- ・相互のポスター・チラシの掲示・設置。県立美術館とは、半券提示で相互に割引制度を実施、開会式への招待
- ・王子動物園で実施される「ありがとうタンタン」キャンペーンの一環として、横尾氏の長女、横尾美美氏によるタンタンをモチーフとした作品展の開催にあたり、連携協定書を締結し、様々な助言や支援、広報協力を実施

(c) 美かえるカラフルマルシェの開催

- ・平成28年度からミュージアムロード沿線の阪神電鉄(株)、(株)シマブンコーポレーション、県立美術館本館、地元商店と共催しているアートを軸とした街の賑わいづくりイベント。
- ・令和2年度は春と秋に実施予定であったが、コロナ禍のため中止。

(イ) 団体等との連携

日本自動車連盟(JAF)、コープこうべ等と団体割引提携を行い、会員等の来館促進を図った。(令和2年度実績/JAF:869人、コープこうべ721人)

(ウ) 学校との連携

コロナ禍により学校団体の受入が難しかったため、「横尾忠則の緊急事態宣言」会期中に県立西宮鳴尾高校への出張レクチャー、および神戸芸術工科大学のオンライン授業を実施

(エ) 書店との連携

蔦屋書店(銀座店、梅田店): 図録の委託販売
ジュンク堂・喜久屋書店: 展覧会しおりの設置

(オ) 他館との連携

(a) 国内

【ミュージアムロードを構成する主要文化施設】

県立美術館本館はもとより、近接する神戸文学館や神戸市立王子動物園、ミュージアムロードの中間点に位置するBBプラザ美術館等と連携し、ポスター掲示、チラシの設置について相互に協力

【国内の美術館等】

- ・豊島横尾館、西脇市岡之山美術館、金沢21世紀美術館、ギンザ・グラフィック・ギャラリー(大日本印刷)など、横尾作品を所蔵する美術館等との広報連携を推進
- ・R3年に国内を巡回する過去最大規模の回顧展「Genkyo 横尾忠則展」(愛知県立美術館、東京都現代美術館、大分県立美術館)に所蔵・寄託作品約200点を貸し出すほか、助言等の協力を行った。

(b) 海外

- ・R4年に上海当代芸術博物館で開催が予定されている大規模個展に作品貸出、助言等の協力を行う予定。

⑥ 情報の提供・広報

『横尾芸術の一大拠点』、『様々な芸術に触れることのできる場』、『国内外の美術館等との連携』、『参加・体験型のミュージアム』といった当館の魅力を、様々な媒体により、幅広い層に伝えるとともに、ミュージアムロードをはじめとする地域との連携も図りながら、効果的な広報活動を展開

(ア) 展覧会毎の取組

- (a) 知事定例記者会見での発表、記者説明会の開催
- (b) 横尾氏がデザインしたチラシ・ポスター等の配布
- (c) ローソン・チケット、楽天レジャーチケット、JTB電子チケットで前売・当日券の販売
- (d) 割引券の設置(ジュンク堂書店、喜久屋書店、蔦屋書店、美術館・ギャラリー等)
- (e) 交通広告(JR、阪急、山陽、神戸シティループバス等)の実施
- (f) 三宮センター街へ展覧会PR用大型懸垂幕を設置
- (g) 展覧会関連事業を通じた話題づくり(ミニライブなど)
- (h) JR三ノ宮駅交番北側に展覧会看板の掲出

(イ) 年間を通じた取組

- (a) マスメディアの活用
 - ・テレビ・ラジオのニュース・特集番組、新聞・雑誌等
 - ・テレビ大阪「新美の巨人」におけるシシド・カフカさんとの対談等、番組取材の積極的な受け入れ
- (b) 県広報誌(県民だよりひょうご「文化の風」、兵庫ジャーナル等)
- (c) 館長によるトップセールス
講演会等におけるPR等
- (d) 国際的なPR
 - ・県立美術館、BBプラザ美術館と共同での英語・中国語パンフレットの配布
 - ・英語字幕付きのYouTube動画の制作・配信
- (e) 美術館ニュースの発行(2年度:No24+25)
- (f) インターネットによる情報発信(<http://www.ytmoca.jp>)
 - ・館ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、メールマガジン
 - ・フォロワー数約31万人を持つ横尾氏のツイッターとの連携
 - ・8月より、当館公式ユーチューブチャンネルを開設
ギャラリートーク(字幕:日・英)のほか、「Y+TMOCAの舞台裏」と題して当館学芸員が美術館の仕事の概要を語る動画(字幕:日・英・中・韓)を配信
- (g) 各種情報誌、フリーペーパー等への掲載
- (h) 週刊朝日に瀬戸内寂聴さんとの対談「往復書簡 老親友のナイショ文」が掲載(R元.8.16～連載中)等、横尾氏に関する記事が掲載された。当館としても、引き続きメディアに対し、全国レベルでの広報の働きかけを実施する。

[参考:掲載等の状況]

	新聞	テレビ・ラジオ
兵庫県立横尾救急病院展	特集記事(展評等)9回 案内記事(開催情報等)22回	3回(NHK日曜美術館、テレビ大阪「新美の巨人」)等
横尾忠則の緊急事態宣言	特集記事(展評等)4回 案内記事(開催情報等)4回	4回(NHK神戸・サンテレビニュース等)
学芸員危機一髪	特集記事1回、案内記事2回	—

【横尾忠則現代美術館の管理運営 評価】

○横尾作品を中心とした展覧会の開催

年間の来館者数の目標を7万人、入場者数の目標を3.5万人と設定し、魅力的な展覧会の開催やオープンスタジオを活用したイベントの開催等により、観客動員を図ってきた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、4、5月と臨時休館を余儀なくされ、来館者数2.9万人、入場者数は、1.4万人と目標値を下回り、入場者数は対前年比54.7%（令和元年度2.5万人）にとどまった。今後とも、感染拡大防止基本としつつ社会経済活動等に配慮するなどの県方針に従いつつ、ウィズコロナ／ポストコロナの時代に相応しい創意工夫を重ね、より魅力的な企画により、新たなファン層を開拓していく。

○動画配信等、オンラインによる情報の発信

コロナ禍における美術館の取組として、臨時休館中に開始した「おうちでYTMOCA」と題してSNSで、展覧会の様子やこれにまつわる秘話等を紹介したほか、新たに館のPR動画(※)を作成、YouTube配信等を行い、美術館の魅力を発信し、ファン層開拓に取り組んだ。

※横尾忠則×草刈民代の世界ーアートとダンスの競演ー「in between」、ギャラリートーク、「美術館の舞台裏」等、全10事業、視聴数18,823回。

(上記「★YouTube配信」の箇所)

○貴重なアーカイブ資料の整理と公開

神戸芸術工科大学の学生インターンシップ及び甲南大学から博物館実習生の受入れや、武蔵野美術大学との共同調査により、整理と公開作業が軌道に乗ってきた段階である。武蔵野美術大学との連携は令和元年度で終了し、R2年度はコロナの影響で神戸芸工大のインターンは実施できなかったが、R3年度より復活させるとともに、新たに甲南女子大学の博物館実習生を受け入れる予定である。今後も感染症対策を講じながらアーカイブ資料の整理と公開を進めていく。

○オープンスタジオを活用した多彩なイベントの実施

企画展関連事業やオープンスタジオコンサートを計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの観客を集めるイベントは自粛した一方、YouTubeでの動画配信を開始し、美術館の魅力発信に努めた。(令和2年度:合計12事業、参加者20,060人、前掲オンライン配信含む)。

今後は、新型コロナウイルス感染症対策の県方針に従い、徐々に横尾氏と親交のある著名なゲストのライブ、親子向けワークショップ、多様な分野のオープンスタジオコンサートの開催など、魅力的なイベントの再開を進めたい。

○作品・資料等の保存・修復活動

収蔵作品及び資料を良好な状態で保存・継承するため、展覧会と並行して、日々地道な保存・修復活動及び館内の環境維持に努めており、今後も継続的に実施する。

○連携によるにぎわいづくり

県立美術館、BBプラザ美術館、神戸文学館など、ミュージアムロードを構成する文化施設との相互PRや、商店街との連携に努めており、今後も継続して実施する。

○情報の提供・広報

横尾氏制作によるポスター・チラシ等による広報展開に加え、ホームページ、ツイッター、フェイスブック、メールマガジンなどの電子媒体による情報提供を積極的に展開する。また、当館は、写真撮影が可能であり、ツイッターやインスタグラム等での拡散を期して、今後も「ブロガー向け内覧会」を実施する。

○横尾忠則コレクションギャラリー、休憩コーナーの開設

人と地域をアートでつなぐまちづくりの拠点として、エリア全体の魅力向上を図るため、横尾作品に影響を与えた世界の著名芸術家の寄贈コレクションを展示するコレクションギャラリー、眺望を活かした休憩コーナー「キュミラズム・トゥ・アオタニ」を4階に整備し、今後も新たな魅力発信を進めることとしている。

『収益事業』

〔県民会館関係〕

新型コロナウイルス感染症拡大への対応

基本方針

「新型コロナウイルス感染症に係る感染予防・拡大防止対策」の策定による感染症対策の徹底

- ◆令和2年4月7日：新型インフルエンザ等対策特別措置法による「緊急事態宣言」発出（措置期間：4/8～5/6まで、のち5/31まで延長）

休館（兵庫県対応方針による）

休館 4月8日～5月31日

全面的な再開までの様々な対応

(1)館内入居団体等への対応

- ・休館期間中の会館利用についての注意喚起（書面通知及び掲示）
 - ① 入館時の手指消毒・マスク着用の励行
 - ② 各団体職員の健康チェック、外部からの事務室利用者の連絡先の把握
 - ③ 定期的な換気と利用人数の制限
 - ④ 入退館経路の制限(南入口のみ)

(2)ホール、ギャラリー、会議室の利用団体等への対応

- ・休館期間における予約者への連絡及び日程変更調整、キャンセル対応（キャンセル料返還処理含む）
- ・貸館業務再開に向けた準備
 - ① 貸館スペース（館内共有部分及び備品含む）の消毒・除菌コーティング
 - ② 対面業務を行う受付・管理人室への飛沫防止ビニール幕設置
 - ③ 南北両出入口へのサーモカメラ・手指消毒液設置と動線案内表示
 - ④ 感染防止のための貸出物品（消毒液、飛沫防止パーテーション、非接触型体温計、着席制限ボード等）の準備
 - ⑤ 空調設備による外気導入・各階通路の窓開閉による換気の向上
 - ⑥ 利用者向けの注意喚起書面の配付・掲示

再開後の対応（第2回・第3回緊急事態宣言期間含む）

(1) 上記以外に館内感染症対策として以下を実施。

- ・鍵や消毒スプレーなど利用者への受渡物品の消毒、現金のトレー收受
- ・キャッシュレス決済の導入（PayPayをR3年1月から）
- ・兵庫県新型コロナ追跡システムのQRコード掲出（R2年7月から）
- ・毎月初の予約抽選会における事前申込制（メール・FAX）の採用
- ・会議室等への非接触型体温計、飛沫防止アクリルパネルの貸出・設置
- ・トイレの水道蛇口・男性用小便器のセンサー化（非接触）

(2)新型コロナ禍における会館利用向上対策

- ・6月に食堂・喫茶運営事業者が撤退後、新たな事業者を誘致し10月から喫茶（軽食・弁当も提供）を再開、併せて地下1階の食堂跡スペースにイートインコーナーを開設。
- ・会議室等のLAN・Wi-Fiなど通信環境整備（R2.9～10月で実施）によりウェブ会議・配信イベント等を取り込み

- ・ 県民アートギャラリーの照明のLED化や、展示パネルの更新を行うとともに、パソコンやスマートフォンでギャラリーを歩くような感覚で展示品を鑑賞できるバーチャルギャラリー“Walk 360”の運用を開始（R2.2月から）。
- ・ 県民会館ホームページをスマートフォンでも閲覧・利用しやすくなるようリニューアル。
- ・ 1階ロビーフロア改修による音響性能向上・新進アーティストのロビーコンサート等に活用
- ・ 1階特別展示室の空期間を活用したロビー側壁面への作品展示

公益目的以外の施設提供事業

1 施設の管理運営事業

兵庫県民会館

当協会は、平成18年度から5期15年にわたり指定管理者として兵庫県民会館の管理運営を担っている。広く県民にホール・会議室等の施設を提供するなか、運営経費のコスト削減、経営の合理化に努め、芸術文化に親しむ環境のさらなる充実を図ってきており、令和3年度からの3年間も引き続き指定管理者の役割を担っていくこととなった。

令和2年度では、4月初旬に新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が発せられ、当会館貸館部分が5月末まで休業となるなど、集客部門への利用制限、外出や催事についての抑制・自粛が波状的に続く厳しい1年となった。

当会館では入居団体をはじめとする利用者の安全・安心をまず確保するため、①館内共有スペース等の消毒・抗菌コート処理や換気対策（空調による外気導入、窓・扉の開閉励行等）、②会館出入り口へのサーモカメラ・消毒液の設置、入退館動線の設定、③施設改修（トイレの水道蛇口・男性小便器のセンサー化等）、④会議室等利用者への感染防止対策の徹底及び対策物品の貸出、⑤「兵庫県新型コロナ追跡システム」QRコードの各会議室掲示、⑥接触感染防止のためキャッシュレス決済「PayPay」の導入や予約抽選会における事前申込制（メール・FAX）の採用など、万全の対応を図ってきた。

また、会館内の賑わいづくりとして、①喫茶コーナーへの新規事業者の参入及び軽食提供、②食堂事業者の撤退に伴い地下1階空きスペースにイートインコーナーを設置、③特別展示室の空き期間を活用した作品展示、④館内の通信環境（LAN, Wi-Fi）の整備・向上、⑤パソコンやスマートフォンでギャラリーを歩くような感覚で展示品を鑑賞できるバーチャルギャラリー“Walk 360”の運用開始など、新たな取り組みでさらなる利用率の向上をめざしている。

【所在地】 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号

【施設】 11階パルテホール（収容150人）、9階けんみんホール（客席数360席）、会議室（18室）、集会室（3室）、宴会室（3室）、時間貸駐車場（37台）、月極車庫（44台）、団体事務室（23団体）、営業店舗（2業者）、アーティストサロン、兵庫県民アートギャラリー（4室）

・ 利用状況など

【来館者数】 235,984人

【利用状況】 (単位：日、%又は台、()内対前年比)

施設名	室数等	開館日数	利用日数	利用率
11階パルテホール	1室	302	140(84.8%)	46.4(71.5%)
9階けんみんホール	1室	302	157(84.8%)	52.0(73.4%)
会議室	18室	5,436	2,493(84.8%)	54.1(76.4%)
集会室(和室)	3室	906	402(84.8%)	44.4(81.0%)
宴会室	3室	906	517(84.8%)	57.1(82.2%)
アートギャラリー	4室	1,046	222(73.5%)	21.2(45.3%)
時間貸駐車場	37台	365	365(99.7%)	27,719台(71.2%)
月極車庫	44台	12ヵ月	12ヵ月	526台(99.6%)

【利用料収入状況】 (単位：円、税込)

施設名	金額()内対前年比	施設名	金額()内対前年比
11階パルテホール	12,194,870(57.0%)	アートギャラリー	5,203,850(37.8%)
9階けんみんホール	7,586,660(55.7%)	事務室及び倉庫	30,018,123(99.9%)
会議室	23,262,435(61.3%)	便利施設	491,127(18.9%)
集会室(和室)	1,436,855(68.8%)	月極車庫	18,936,000(99.6%)
宴会室	8,878,400(65.5%)	時間貸駐車場	21,868,800(68.8%)
附属設備	196,950(98.1%)	合計	130,074,070(69.9%)

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響で当会館の利用料等の収入が減少する中、感染症対策等を講じる必要があったことから、県において令和2年度の指定管理にかかる県への還付金から収支差額分64,336千円を減額し36,864千円とする措置がとられている。

(ア) 施設・設備の長寿命化と利用促進

老朽化した施設・設備を長持ちさせるための修繕工事や定期点検・メンテナンスを小まめに行うとともに、コロナ禍で集客事業の実施環境が厳しい中、音響性能の向上したけんみんホールをはじめ、通信環境(LAN、Wi-Fi)が整ったホール・会議室等でのWEB会議や催しの配信事業などの利用促進にも努めた。

(イ) 会議室・ギャラリーの貸出

ホール、会議室、ギャラリー等の施設は、講演会、発表会、芸術作品の展示会などの催しに利用され、近隣施設に比べて高い利用率を概ね維持し、芸術文化活動の拠点施設として親しまれている。各会議室でWEB会議等が実施できる通信環境(LAN、Wi-Fi)整備、県民アートギャラリーの照明のLED化・展示パネルの更新、ロビー床面改修による演奏会場としての音響性能向上、文化情報誌や県内施設の催物案内チラシ等が閲覧できる情報コーナーでの多彩な文化情報の提供など、会館の魅力向上により来館者数の確保を図った。

(ウ) ギャラリー運営会議の開催

広く公平・適正な利用を推進するとともに、効率的・計画的なギャラリー運営の円滑化を図るため、絵画、美術・工芸、書等の専門家で構成されるギャラリー運営会議を開催し、貸出計画案の承認を得た。

2 駐車場等

(1) 駐車場等の運営

・兵庫県民会館	:(時間貸)	収容台数	37台
	(月極)	収容台数	44台
・芸術文化センター	:(時間貸)	収容台数	約100台
・県立美術館王子分館	:(時間貸)	収容台数	31台

(2) 喫茶、レストラン等のスペースの貸出

施設利用者の利便に供するため、次のとおりスペースを貸し出した。

・兵庫県民会館	: 喫茶・軽食(6月で撤退、10月から別会社が喫茶・軽食及び弁当の営業再開)・レストラン(6月で撤退、10月からイトインコーナーを開設)・理容
---------	---

- ・芸術文化センター : 喫茶・レストラン
- ・ピッコロシアター : 喫茶
- ・県立美術館王子分館 : 喫茶・軽食

(3) 関連グッズのショップ設置・運営

- ・芸術文化センター : オリジナルグッズや音楽・バレエなど様々な舞台芸術に関するグッズを販売した。
- ・県立美術館王子分館 : 横尾忠則現代美術館において、横尾グッズ等を販売した。

(4) 自動販売機の設置

施設利用者の利便に供するため、清涼飲料水を中心とした自動販売機を設置した。

- ・兵庫県民会館 : 8台
- ・県立美術館王子分館 : 2台

(5) 図書頒布等

- ・兵庫県民会館
横尾忠則展図録等の図書頒布販売事業、芸術文化関係入場券の受託商品販売事業を行った。

【施設の管理運営事業等 評価】

○利用状況等

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月8日から5月末日まで県民会館が休館となった。6月以降も利用を控える傾向が続き、9月頃から持ち直したが、12月中頃からコロナ第3波が押し寄せ、再び利用が落ち込んだ状態で年度末を迎えた(会議室利用率 ㊦70.8%→㊧54.1%)。

コロナ禍のもと集客施設への利用制限、外出や催事の抑制・自粛が波状的に続くなか、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するとともに、会議室等の通信環境(LAN、Wi-Fi)向上によるウェブ会議等の取り込みや音響効果の高まったけんみんホールやロビーを活用した新進アーティストの活躍の場を設けるなど、新たな利用につながる取り組みを実施している。

また、会館内の食堂・喫茶の運営事業者が6月で撤退したが、10月から新たな事業者が1階で喫茶を再開し昼食弁当の提供も開始された。これに合わせて地下の旧食堂部分にイートインコーナーを開設することで、にぎわいを取り戻しつつある。

このような状況のもと、県民会館利用料収入は対前年度比 70%で何とか踏みとどまったものと評価している。

○施設・設備改修

県民会館は築50年以上が過ぎており、施設利用者に安全に安心して利用していただくために、施設・設備の改修やメンテナンスを適時適切に行なっている。また、県民アートギャラリーの照明のLED化や展示パネルの更新、ロビー床面改修による音響性能の向上、バーチャルギャラリー“Walk 360”の運用開始など、館内の利便性や魅力の向上にも努めている。

○県民会館の指定管理

当協会は、指定管理者制度が始まった平成21年度から5期連続で県民会館の運営を行い、令和3年度からの6期目も引き続き、指定管理者として役割を務めていく。

指定管理者として安定的かつ効率的運営を行ってきており、毎年度実施している利用者アンケートでは、「職員・スタッフの対応」を88%の人が満足と回答しており、管理・運営の各項目で、満足度が70%以上となるなど、高い評価を得ている。(例年7月と2月の2回実施であるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で2月分は未実施となった)